

未来をつくる実践目標

チャレンジ2024

【ver.3】

(令和6年度 主要政策)



令和7年5月

福井県

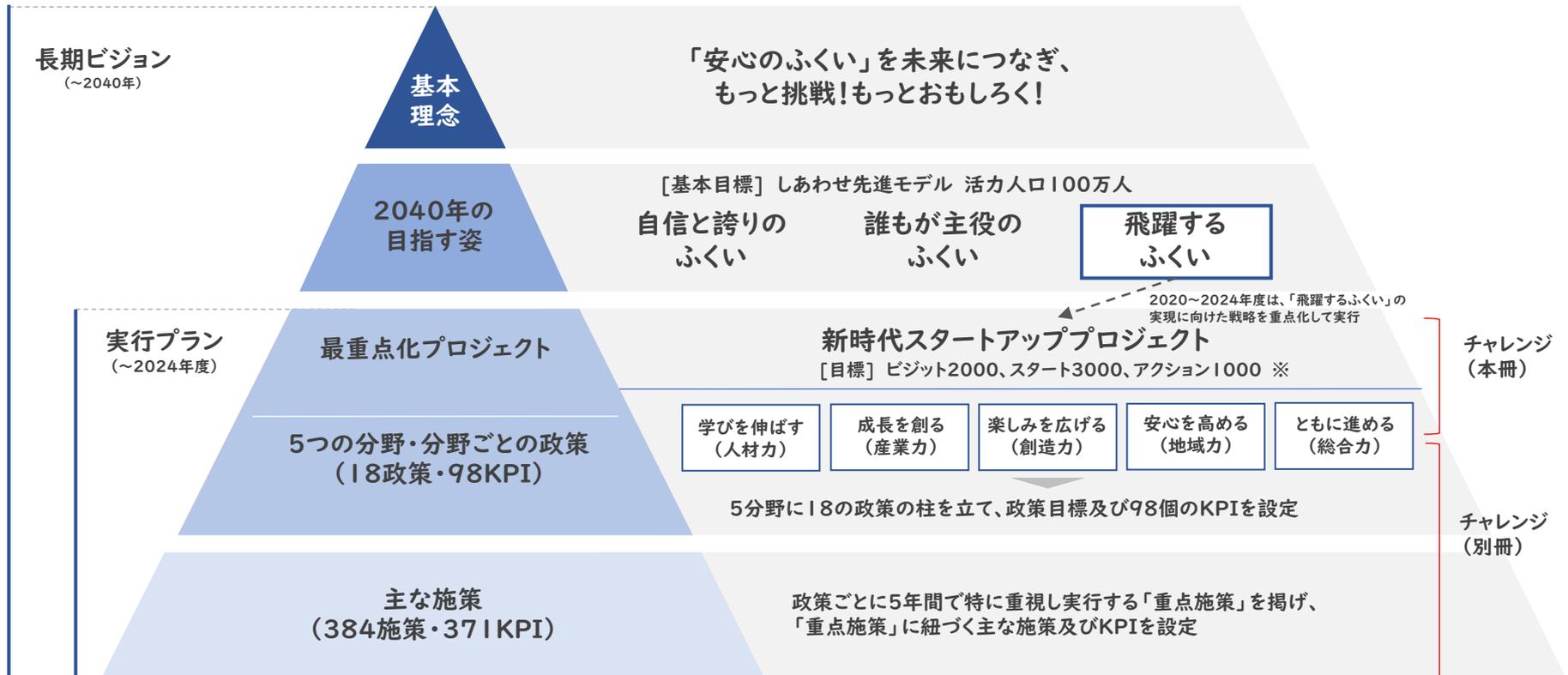
はじめに

福井県では、「2040年のふくい」の将来像を県民の皆さんと共有する「福井県長期ビジョン」を令和2年7月に策定し、長期ビジョンに基づく県政運営を行っています。

このため、令和2年度から、毎年度、県がどのような姿を目指し、どのような政策を進めようとしているのかを、「実践目標」として長期ビジョンの体系で整理し、県民の皆さんに分かりやすくお示ししています。また、長期ビジョンでは、北陸新幹線福井・敦賀開業を迎えるこの5年間に重点化して実行する政策を「新時代スタートアッププロジェクト」と位置付けており、その主なプロジェクトを冒頭にまとめています。今回、令和6年度の進捗状況および政策の成果をとりまとめました。

各政策の実行に当たっては、県民、市町、企業、団体の皆さんとの連携を重視し、「チームふくい」で進めていきます。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

(参考) 実行プランの体系図



※「ビジット2000」…観光客入込数2,000万人(2024年)、「スタート3000」…創業・事業承継等の件数3,000件(2020~2024年度計)、「アクション1000」…県民の主体的な活動応援1,000件(2020~2024年度計)

目次

令和6年度の結果概要	4
令和6年度の主な成果	5

新時代スタートアップ主要プロジェクト

(1) ふくいエンタメ計画	11
～ふくいの魅力をとがらせよう～	
(2) 次世代チャレンジ宣言	15
～チャレンジで未来をつくろう～	
(3) しあわせアクション運動	20
～一人ひとりがプレイヤーになろう～	

分野別の主要政策別 令和6年度の主な成果	23
----------------------	----

≪巻末資料≫

未来をつくる実践目標「チャレンジ2024」の 結果概要について	44
------------------------------------	----

令和6年度 分野別の主要政策（別冊）

I 学びを伸ばす（人材力）

政策1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成	4
政策2 ふくいの産業・社会を支える人づくり	11
政策3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現	16
政策4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援	23

II 成長を創る（産業力）

政策5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ	29
政策6 地域経済のイノベーション	38
政策7 Society 5.0時代の新産業創出	44
政策8 拡大する世界市場をふくいの成長へ	50

III 楽しみを広げる（創造力）

政策9 100年に一度のまちづくり	53
政策10 北陸新幹線開業効果を最大化	61
政策11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略	68
政策12 文化・スポーツがふくいの活力	73

IV 安心を高める（地域力）

政策13 人生100年時代の健康ライフスタイル	77
政策14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉	81
政策15 ふるさとの暮らしと風景の維持	86
政策16 防災・治安先進県ふくいの実現	92

V ともに進める（総合力）

政策17 「チームふくい」の行政運営	100
政策18 広域パートナーシップの強化	105

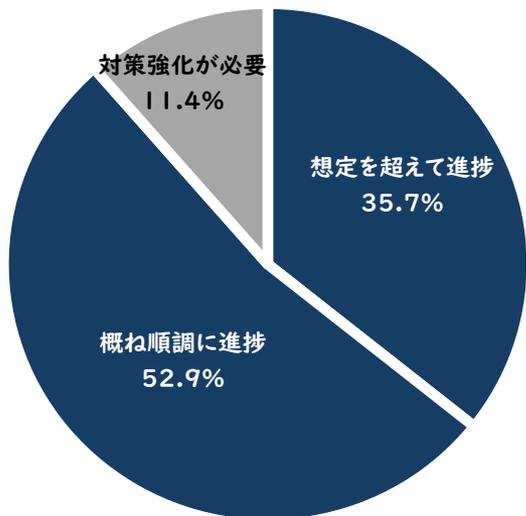
令和6年度の結果概要

- **長期ビジョン 実行プランKPI**（98項目）の達成率（※）は**88.6%**で、昨年度（公表時）比+0.6%
- **チャレンジ2024 実践目標KPI**（371項目）の達成率は**83.9%**で、昨年度（公表時）比▲1.9%

※達成率：「想定を超えて進捗」と「概ね順調に進捗」の合計（判断時期未到来の指標を除いて算出）

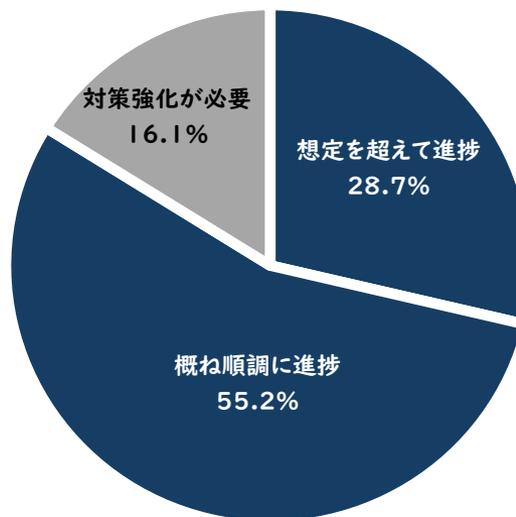
長期ビジョン実行プランKPI

※判断時期未到来の指標を除いて算出



チャレンジ2024実践目標KPI

※判断時期未到来の指標を除いて算出



内容	判断基準
想定を超えて進捗	110%超
概ね順調に進捗	90~110%
対策強化が必要	90%未満

<目標を達成した主なチャレンジ2024 実践目標KPI>

指標	目標値	実績	達成率
県立大学恐竜学部の一般選抜志願倍率	6.0倍	7.3倍	121.7%
女性活躍推進企業登録数	500社	741社	148.2%
「ふく育さん」利用件数	600件	837件	139.5%

指標	目標値	実績	達成率
スマート農業導入面積	7,000ha	7,613ha	108.8%
敦賀港の取扱貨物量	17,300千トン	18,583千トン	107.4%
企業の太陽光発電設備支援	1,450kw分	1,927kw分	132.9%

令和6年度の主な成果

新幹線開業1年～さらなる投資とにぎわいの好循環へ～

新幹線開業のにぎわいを実感！

開業以降、本県の注目度が全国的に高まり、東京と福井が直結したことで、来訪者が、関東圏から約3割、信越地域から約5割、全体で約2割増加しました。また、県内の主要観光地の入込みも好調で、恐竜博物館の来館者は過去最高となる120万人を記録しました。さらに、開業後、県民の気持ちも前向きになり、幸福実感の全国順位も躍進しました。



敦賀駅（GW）コンコースの様子



恐竜博物館



一乗谷朝倉氏遺跡博物館

まちづくりへの重点投資

8月に福井駅前電車通り北地区において、A街区のフクマチブロックがオープンするなど、まちづくりを着実に進めてきました。今後も各市町において計画されている福井駅前南通り地区や越前たけふ駅周辺の再開発、敦賀市中心市街地のまちづくりなどを引き続き支援し、開業効果をさらに拡大し、にぎわいを創出していきます。



越前たけふ駅整備イメージ

観光地の価値向上

新幹線の開業効果を最大化・持続化し、さらに人を呼び込むため、東尋坊（坂井市）の再整備や六呂師高原（大野市）の自然資源を活かしたアウトドア観光の推進など、観光地の価値向上を支援しています。また、伝統工芸を取り入れたコンセプトルームやサイクリストに優しい宿など、多様で魅力的な宿泊施設整備への支援も進めました。



大野市 六呂師高原キャンプ場（イメージ）

二次交通の利便性向上

交通系ICカードは、これまでハピラインふくいや令和6年2月に導入された京福バス、福鉄バスで利用可能でしたが、えちぜん鉄道と福井鉄道でも導入が進み、10月に利用可能となりました。引き続き、県民や観光客の利便性向上を図るとともに公共交通の利用を促進していきます。



地域鉄道ICOCA導入

新たな地域での誘客促進

東京駅周辺をはじめ、北陸新幹線沿線での年間を通じたプロモーションのほか、JRグループ等による「北陸デスティネーションキャンペーン」の一環として実施された東北地域からの団体専用直通新幹線の運行、これに合わせて初めて実施した仙台市や盛岡市等での出向宣伝など、新たな地域で「ふくいブーム」を創出しました。



仙台駅での出向宣伝の様子

文化・スポーツで賑わい創出

ふくい桜マラソン2025開催

大規模都市型フルマラソン大会「ふくい桜マラソン2025」を3月30日に開催し、13,485人の国内外のランナーが出走しました。多くの県民ボランティアが参加し、ランナーに対し鯖寿司やソースカツ丼などのご当地給食、太鼓やダンス等の沿道応援で福井のおもてなしと魅力を強力に発信しました。



ふくい桜マラソン2025

地元チームの活躍を応援

福井県スポーツ情報ポータルサイトにおいて、ふくい県民応援チーム「FUKUI RAYS」の試合結果発信、体験イベント開催など、県民一体となり各競技を応援しました。特に、2023-24シーズンにB3リーグに参戦した「福井ブローウィングス」は、初年度でB3レギュラーシーズン1位となり、今季は昇格したB2リーグで県民を熱くする戦いを見せてくれました。



福井ブローウィングス

アートによる交流拡大

誰もが文化芸術活動を発表できる「まちなかステージ」を新たに坂井市とおおい町に設置し、まちなかのにぎわい創出を図りました。また、若狭町で「熊川宿若狭芸術祭」、永平寺町で「ZEN AIR」を開催し、国内外のアーティストによる公開制作や地域住民との交流等により、アートによる交流拡大を図りました。



熊川宿若狭芸術祭

未来を創る人材育成

特色を活かした魅力的な大学づくり

県立大学では、令和7年4月「恐竜学部」開設に向け、学部棟の建設や入学者選抜などを行いました。一般選抜の前期日程の倍率は7.3倍となり、高い注目を集めました。また、令和8年4月開設予定の「地域政策学部（仮称）」について、福井まちなかキャンパスに設置することを発表しました。地域の特色を活かした教育を推進し、魅力的な学びの場の創出を図ります。



恐竜学部棟イメージ

多様性を認め合う教育の充実

学校内に教室とは別の校内サポートルームを設置し、支援員の配置により、不登校児童生徒や不登校の兆しのある児童生徒が安心して過ごすことができる居場所づくりを県内小中学校50校で実施しました。引き続き、児童生徒へのきめ細かな対応を通して、不登校の未然防止や早期発見・早期解決を図ります。



校内サポートルーム

福井の将来を考える教育

「地域の未来」と「自分の将来」を結び付けて考える「地域デザイン講座」を普通科系高校9校、職業系高校11校で実施しました。また、高校生の探究合同発表会「高校生探究フォーラム」では、生徒の発表に対して参加した大学や企業等の助言者からのアドバイスや意見交換を通して、これからの探究学習への理解を深めました。



地域デザイン講座

結婚・出産・子育て応援

出会いの機会の創出

恋愛や結婚を希望する若者を応援するため、20代の登録者が多いマッチングアプリを運営する株式会社タップルと「恋愛および結婚支援に関する連携協定」を締結し、若者に対する恋愛気運の醸成や恋人探しの活動の促進に加え、登録者の親に対してアプリを使った恋人探しへの理解促進などの啓発を行いました。



民間企業と連携した恋愛・結婚応援

ふく育応援の充実

扶養2人以上世帯の高校授業料無償化について4月から所得制限を撤廃したほか、9月からは第2子の保育料無償化、第2子以降の在宅育児手当支給の所得制限を撤廃し、複数の子どもを育てる家庭への経済的な支援を拡充しました。引き続き、「ふく育応援」の充実をはじめ、ゆりかごから巣立ちまで切れ目ない支援の充実を図ります。



保育の様子

子育てをもっと安心に

子育て世帯の家事・育児、外出をサポートする「ふく育さん」や「ふく育タクシー」の利便性向上のため、両サービスの利用申し込みを一元的に受け付けるオンライン窓口を設置しました。また、男性育児取得の促進に向けた環境づくりや奨励金支給などにより、男性育児休業取得率は31.4%に上昇しました。



ふく育さん、ふく育タクシー利用シーン

産業基盤の強化・企業の応援

ビジネス交流の活性化

新幹線開業を契機として県外企業と県内企業とのビジネス交流の活性化が見込まれる中、福井駅西口の民間インキュベーション施設「越乃バレー」に「ふくいイノベーションオフィス」を開設しました。県の企業支援チームが常駐し、県内外の企業間のビジネスマッチングを強力に推進しています。



県内企業を対象としたマッチングイベント

農林水産物の売込み強化

フランスでの食の見本市「シアルパリ」出展、シンガポールでのレストランフェア開催など、石川県、富山県と連携して、県産農林水産物や食品の海外の販路拡大を図りました。また、シェフやバイヤー等を招聘した産地視察、首都圏のレストラン、ホテル等での「美食福井」フェア開催など、県産食材の国内の認知度向上につなげました。



フランス「シアルパリ」北陸三県連携PR

外国人の就業支援の充実

企業からの外国人材の採用・定着に係る相談や県内で就職を希望する外国人材の就業支援等を行うため「FUKUI外国人材受入サポートセンター」を設置しました。各業界の人手不足の克服に向け、県内企業における外国人材の確保・定着を推進します。



FUKUI外国人材受入サポートセンター

長期ビジョンの着実な推進

次世代に選ばれるふくいへ

東京都や埼玉県のショッピングモールで移住相談会を初開催し、本県の生活環境の魅力や移住支援策、充実した子育て環境をPRしました。

また、県内高校において、第一線で活躍する方を講師とした「キャリア教育セミナー」や経営者等を講師に招いた職業学科共通科目「ふくい産業」の実施により、学生の県内就職の促進を図りました。



ショッピングモールでの移住相談会

女性活躍サミット初開催

県内企業等における女性の積極的な採用・育成・登用を進める中、「ふくい女性活躍推進企業」は741社となりました。

7月には北陸初の三県合同による「かがやきHokuriku女性活躍サミット」を開催し、地方創生担当大臣と北陸三県知事の連名により、誰もがイキキと活躍できる社会の変革に向けた共同宣言を採択しました。



女性活躍サミット共同宣言

生活習慣の改善による充実生活

目標に向かってウォーキングに取り組み、継続的に運動する習慣を促すため「はびウォーク2024」を初開催し、約9,000人が参加しました。

また、睡眠に対する意識を高め、良い睡眠のための生活習慣を実践してもらう「睡眠キャンペーン」を開催し、約2,200人が参加し、睡眠満足度の向上を実感しました。



はびウォーク2024キックオフイベント

福井から全国を動かす

8月に全国知事会議を福井市で開催し、子ども・子育て政策や人口減少問題等に対して都道府県が連携して取り組むなどの「福井宣言」が採択されました。

また、3月には、2040年の将来像を描く「福井県長期ビジョン」を一部改定し、今後の5年間（2025～2029年度）の県政の方向性を示す新たな実行プランを策定しました。



全国知事会議in福井

エネルギーによる地域活性化

嶺南Eコースト計画に基づき、点在する電力需要をコントロールし、発電所のように機能させる仕組みVPP

(バーチャル・パワー・プラント)の実証や地域の特色を活かしたスマートタウンの整備支援のほか、原子力リサイクルビジネスを行う新会社の事業計画の具体化や地元企業・住民への理解促進活動を実施しました。



スマートタウン（イメージ）

能登半島地震等を踏まえた防災強化

孤立する可能性の高い集落におけるドローンの自動飛行ルート設定や、災害現場で撮影したドローン映像を遠隔地で3D化处理することによる被災規模の早期把握を行う仕組みの構築など防災のDX化を推進しました。

また、救命・救助活動や緊急物資輸送に不可欠な緊急輸送ルートの通行確保のため、道路啓開計画を策定しました。



ドローン調査の様子

新時代スタートアップ 主要プロジェクト

2020年～2024年の合言葉は \\ とんがろう、ふくい //
新時代スタートアップ★プロジェクト



ふくいの魅力をとがらせよう

～ふくいエンタメ計画～

観光や文化、スポーツなどの
とがった魅力でたくさんの方を
呼び込もう！
みんなが楽しめるまちを作ろう！

チャレンジで未来を作ろう

～次世代チャレンジ宣言～

おもしろい仕事を
みんなで増やそう！
みんながしあわせな、
新しい働き方を実現しよう！

一人ひとりがプレイヤーになろう

～しあわせアクション運動～

一人ひとりのできることを考えて、
持ち寄ろう！
みんなの「小さなアクション」を
積み重ねて、ふくいを変えよう！



(1) ふくいエンタメ計画 ~ふくいの魅力をとがらせよう~

観光、文化、スポーツ等の尖った魅力で多くの人を呼び込み、
県民も来訪者も、誰もが楽しめる場所・機会をみんなでつくります。

○観光・まちづくりに重点投資

新幹線駅周辺のまちづくり

新幹線駅設置市と協働し、駅周辺に各地域の特長を活かした魅力的な空間を形成し賑わいを創出します。

■ 福井駅西口市街地再開発を支援

福井駅前において、A 街区のフクマチブロックが8月にグランドオープンしました。
また、B 街区では建築工事、南通り地区では事業計画の変更を認可し、解体工事に対する支援を実施しました。



南通り地区 完成イメージ

■ 「県都グランドデザイン」に基づき、福井城址の活用や足羽川周辺の

にぎわい創出など官民連携による県都のまちづくりを推進

福井城坤櫓（ひつじさるやぐら）の復元工事に
向けた実施設計や石垣補強設計を行いました。
また、足羽川のヨリバ周辺に多目的広場や階段護岸等を整備したほか、にぎわい創出イベントの開催を福井市とともに支援しました。



福井城坤櫓 復元イメージ

■ 金ヶ崎地区や神楽通りの再整備をはじめ、港や鉄道、歴史、食などのコンテンツを活か

した官民連携による敦賀のまちづくりを推進

敦賀市や敦賀商工会議所とともに、新幹線効果を最大化・持続化させるための「敦賀まちづくりアクションプログラム」を策定しました。
また、市が行う金ヶ崎地区の公園等整備や神楽通りの再整備に向けた設計に対して支援しました。



アクションプログラム 将来イメージ

■ 路線バスに導入された交通系 IC カードを活用した乗車無料デーの開催や連携イベントの実施等による公共交通の利用促進

北陸新幹線福井・敦賀開業を機に、IC カード利用者を対象に路線バス半額キャンペーンを実施し、14万人超の方に利用いただきました。
10月から路線バスデジタルスタンプラリーを実施するとともに、10月の3連休にバス無料デーを開催するなど、公共交通の利用促進を図りました。



路線バス半額キャンペーン

■ 観光客の心をつかむ魅力づくり

観光リゾートエリアの形成により、本県の観光資源の魅力を高めるとともに、食の発信や魅力的な宿泊施設の整備などを推進し、誘客を拡大します。

■ リニューアルオープンした恐竜博物館の魅力を県内外に広くPR

「オダイバ恐竜博覧会 2024」、東京ドーム巨人・広島戦「恐竜王国福井デー」、「福井県×タカシマヤ 発掘恐竜王国展」など大手マスメディアや百貨店と連携したイベントを都市部で開催し、多くの来場者に恐竜王国福井の魅力を発信。過去最高となる126万人が来館しました。



オダイバ恐竜博覧会 2024

■ 東尋坊における観光拠点整備を支援

本県を代表する観光地としてスケールアップするため、ビジターセンター整備や駐車場一元化、既存商店街の改修等に対し支援するとともに、マルシェの開催といったソフト事業への支援も行うことにより、エリアの賑わいを創出しました。



東尋坊 (完成イメージ)

■ 六呂師高原の魅力向上に向け、民間活力を導入した開発を促進

六呂師高原の自然を活用した環境負荷の少ない滞在型アクティビティの展開をコンセプトに、民間事業者が行うオートキャンプ場等の整備を支援しました。



六呂師高原キャンプ場 (完成イメージ)

©奥越前パークコンソーシアム

■ 若狭湾サイクリングルート の走行環境・受入環境等を整備

安全にサイクリングを楽しむために、県道・市町道部分の路面表示や案内看板の整備を完了しました。

また、サイクリングガイド養成講座やサイクルツーリズムセミナーなどを開催し受入環境の整備を進めるとともに、国内外へ積極的に魅力を発信しました。



若狭湾サイクリングルート

■ 観光客の決済データ収集、オープンデータ化により観光DXを推進

県内90エリアで実施している観光客向けアンケートにより得られた回答をもとに、満足度や消費額、宿泊地などを分析できるツールを観光データ分析システム「FTAS(エフタス)」に公開しました。

福井県観光データ分析システム
「FTAS(エフタス)」
(FUKUI Tourism data Analyzing System)

■ 多様かつ魅力的な宿泊施設の整備を支援

伝統工芸を取り入れたコンセプトルームやベットと泊まれる宿、サイクリストに優しい宿等、多様で魅力的な宿泊施設整備を支援しています。これまで118軒(嶺北46軒、嶺南72軒)のリニューアル等を支援しました。



伝統工芸ルームへの改修(例)

■ 福井を舞台とした大河ドラマや朝ドラを誘致

福井を舞台とした大河ドラマや朝ドラの実現に向けて、関係市町等と連携し、NHKに要望活動を実施しました。また、機運醸成等を図るため、大河ドラマ「光る君へ」にあわせ大河ドラマ館の運営や出演者によるトークイベントを開催しました。



光る君へ 越前 大河ドラマ館

■ 日本一選ばれるお米「いちほまれ」に向け販売店舗を拡大

9月21日からの新米販売を皮切りに、10月以降、新米発表会、コンビニや量販店等での販売強化、米穀専門店との産地連携などに取り組み、販売店舗が約2,800店に拡大しました。



いちほまれ新米発表会

■ 「日本一のそばどころ」ふくいを全国に発信

福井のそばをPRするため「香福の極み越前蕎麦」をキャッチコピーに周知活動を行っています。県外イベントやハピテラスで開催した「福井そば博2024」で全国に情報発信しました。

また「香福の極み越前蕎麦」認証店が155店舗に拡大しました。



福井そば博2024

■ ブランド魚「若狭ぐじ」「越前がれい」「ふくい甘えび」「若狭まはた」「いわがき」等、四季を通して発信

北陸新幹線で、旬のふくい甘えびを首都圏へ9回輸送し、6月には新ブランド「ふくい岩がき」のお披露目を開催しました。9月からは芦原温泉駅や福井駅周辺などでポップアップストアを開設するなど、四季を通して美味しいブランド魚を提供しました。



ふくい岩がき

■ 美食福井が誇る食材の一体的なプロモーションを強化

県産24品目の特長や固有のストーリーを発信する動画等を活用し、10月に県内、11月に首都圏飲食店等で、「美食福井」が誇る県産食材の魅力を発信。県内外の消費者が県産食材を使った料理を味わうための「美食福井フェア」を194店舗の飲食店で開催しました。



美食福井フェア in 首都圏

■ 都市圏のターゲット層に対して“売り”となる必食の逸品を発信

新名物「フクイシウマイ」として、県産食材を使用した新商品を開発し販売。県内外の方々に福井ならではの「フクイシウマイ」を味わっていただくため、10月には県内飲食店等17店舗でキャンペーンを展開しました。



新名物「フクイシウマイ」

- 食ブランド向上につながる飲食店等の開設を支援し、**魅力的な食を楽しむ「場」**を拡大

ミシュランガイドの星付き有名店で修業したシェフがいる日本料理店など4件の食ブランド向上につながる飲食店の開設を支援しました。



開設を支援した飲食店の料理

- 外国人向けに**観光コンテンツを磨き上げ**、海外旅行会社と県内事業者をマッチングする**窓口を設置**

福井を訪問する目的となるコンテンツを造成し、新幹線開業に伴うニーズと県内事業者をつなげる窓口を設けることで、インバウンドを誘客します。20コンテンツを磨き上げ海外OTAで販売を開始しました。また、7月からインバウンドデスクを設置し、海外の旅行会社等と県内観光関連事業者のマッチングを行いました。



ベトナムの旅行会社との相談

- インバウンド対策**キャッシュレス決済・免税店**を整備

福井を訪れた外国人観光客が快適に旅行できるように、民間事業者のキャッシュレス決済と免税店の導入費用を全額補助し、店舗を一気に増やすことで受入環境の整備を進めました。



設置された免税カウンター

- 敦賀以西への誘客促進のため「**青々吉日 TSURUGA WAKASA**」周遊キャンペーンを開催

首都圏を中心にプロモーション展開するとともに、敦賀・若狭全域への周遊を促すため、観光スポット等を巡るデジタルスタンプラリーを実施し、2,700人以上が参加しました。



青々吉日 首都圏フェア

- 国体レガシーを活かし、「アスリートの聖地」へ

スポーツによるまちづくり・交流人口拡大

スポーツ大会の連続開催や県内のトップスポーツチームの活躍応援など、スポーツをまちづくりや交流人口の拡大に活かします。

- **スポーツコミッションコーディネーターの配置やボランティアに特化したボランティア登録制度の設立**など、スポーツイベント誘致・開催支援活動を強化

スポーツコミッションコーディネーターを新たに委嘱し、スポーツ団体や市町と連携し、さらなるスポーツ大会を誘致。また F.sports! 内のボランティア募集ページでボランティアの会員登録から参加まで1つのサイトで手続きが可能になりました。



スポーツボランティアの様子

- トップスポーツチームを「**ふくい県民応援チーム(愛称:FUKUIRAYS)**」として徹底応援

福井ブローウィングスはB3完全優勝、B2昇格を果たしました。特に、プレーオフ2戦目には、セレンアリーナで過去最高となる3,965人の観客が集まるなど大きな盛り上がりを見せました。県では、FUKUIRAYSのチーム強化費や試合中の演出など、ふるさと納税を活用した支援を行い、県民に愛され応援されるチームづくりを進めました。



福井ブローウィングスホーム戦

- 民設民営の**アリーナ整備構想**の応援によるスポーツエンターテインメントの推進

Bリーグやコンサート、コンベンションなどの開催により、県内外の多世代が集い交流する場を創出し、新幹線開業後のさらなる交流人口を拡大するため、経済界において詳細な事業計画の検討を進めています。



整備イメージ(基本計画案抜粋)

- 「**スポジョブふくい**」によるアスリートのUIターンを推進

「スポジョブふくい」による有力選手のアスリートの就職支援を実施し、25人が令和7年春採用に内定しました。佐賀国スポでも大活躍しました。また、令和8年の春就職に向けたインターンシップ等の活動支援も開始しました。



■ 「e スポーツ」を活用した交流イベントを開催

「福井しあわせパラスポーツデー」などのスポーツイベント内で、e スポーツの体験交流会を開催しました。e スポーツを通じて、障がいの有無や年齢、性別を超えて、県民誰もが楽しめるコミュニティの形成を図りました。



eスポーツ体験交流会

■ 「ふくい桜マラソン 2025」を開催

本県唯一のフルマラソン大会「ふくい桜マラソン 2025」を3月30日(日)に開催しました。国内外から出走した13,485人のランナーには、福井銘菓やソースカツ丼などのご当地給食、沿道応援、多くの県民ボランティアにより福井のおもてなしと魅力を強力に発信しました。



ふくい桜マラソン 2025

■ 県内デザイナーと連携し、一乗谷朝倉氏遺跡全体の誘客策を展開

県内デザイナーが監修した「一乗谷百景 写真展」(9/12~9/16 福井駅東口)および「一乗谷文化祭」(10/12~10/13 唐門前広場)を開催し、一乗谷朝倉氏遺跡や一乗谷朝倉氏遺跡博物館の魅力を発信しました。



一乗谷文化祭

■ 世界最高峰の楽団によるコンサートや子ども向けプログラムを開催

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団による県立音楽堂での公演を27年ぶりに開催し(11/10)、1,456人が鑑賞したほか、子ども向けに実施した公開リハーサルには525名が参加しました。また、誘客や機運醸成を図るため、「ウィーンイヤー291」として、県内外でPRやイベントを実施しました。



ウィーン・フィル公演

○まちと暮らしに音楽・アート

デザイン・アートなど「若者・よそ者」が集まるまちづくり

芸術文化に親しむ機会を充実するとともに、フェス等の賑わいイベントを拡大し、多彩な楽しみにあふれる「おもしろい」まちづくりを進めます。

■ 誰もが発表できる「まちなかステージ」の設置を支援

誰でも自由に文化芸術活動の発表ができる場所をつくり、まちなかの賑わいを創出するため、新たに2市町(坂井市、おおい町)に「まちなかステージ」を設置しました。



おおい町のまちなかステージ

■ 文化芸術を通して地域活性化を図るアートプロジェクトを応援

地域の魅力向上などにつながる文化芸術活動に取り組む33団体を助成金により支援しました。また、活動実践者への支援体制を強化するため、新たに「アーティスト・コーディネーター」として地域おこし協力隊を委嘱しました。



地域おこし協力隊委嘱式

伝統工芸を活かした新時代のまちづくり

千年文化の象徴である伝統工芸産地における体験型イベント等を拡充し、新たな賑わい創出と産地力向上を実現します。

■ 丹南伝統工芸産地における本物体験プログラムを造成

海外富裕層を主なターゲットとし、深く刺さる体験プログラムの造成を行うため、伝統工芸産地のリサーチと首都圏のホテルコンシェルジュや旅行会社を対象にモニターツアーを4回実施しました。



外国人を対象とした越前焼の制作体験

■ 県内外のデザイナー等と連携し伝統工芸ブランド「F-TRAD」による商品開発

タッグを組むデザイナーと伝統工芸事業者が集結し、全体共有会や産地ツアーで交流を深めながら、新たに13点の商品開発を行いました。また、東京でPOPUP販売する等「F-TRAD」商品のPRと販路開拓にも努めました。



F-TRAD 全体共有会

(2) 次世代チャレンジ宣言 ~チャレンジで未来をつくろう~

「次世代ファースト」の観点から、創業支援、働き方改革により若者に魅力ある仕事を創り、尖った企業・人材を増やします。

○新分野チャレンジ「創業するならふくい」

多様な企業誘致の推進

大規模な産業団地の造成を進め、高級ホテルやITサテライトオフィス、本社機能の誘致や投資拡大により、さらなる経済発展と雇用創出を実現します。

■ 知事のトップセールスによる企業の誘致を促進

工場のデジタル化、自動化により生産性を大幅に改善する生産拠点の新設や、高度人材やUIターン者の受け皿として期待できる研究開発機能の拡張に伴う増設が決定しました。



生産効率向上を図る工場の完成イメージ

■ 高付加価値企業や、都市圏同様の待遇の維持など魅力ある企業を誘致

投資余力があり本県と地縁がある企業をリストアップし、オフィス系企業の誘致活動を強化しており、都市圏のITなどのオフィス系企業の進出が決定しました。



オフィス企業イメージ

「福井型エコシステム」の構築

地域内でお金・人・技術等の経営資源が循環する仕組みを構築し、次代を担う産業人材の育成と有望ベンチャーを創出します。

■ 専門家等による事業計画磨き上げや個別メンタリングで有望ベンチャーを育成

令和6年10月30日に「福井ベンチャーサミット」(第11回福井ベンチャーピッチ)を開催し、6社が登壇、資金調達やビジネスパートナー獲得のためプレゼンを行いました。また、同日に県内の主要支援機関を集めたスタートアップ懇談会も開催し、若者の起業支援の連携強化に合意しました。



福井ベンチャーサミット -15-

■ 独創的なアイデアを持つ学生・若者スタートアップを創出

大学と連携したアントレ講座を3回開催し約200名が参加。また、先輩起業家等を招いた起業イベントも14回開催し約100名が参加しました。さらに、起業アイデアを持つ若者17名に対して、事業計画書作成等の伴走支援を実施しました。



起業マインド醸成キックオフイベント

■ 事業承継に向けた企業価値向上と県外人材等による第三者承継を支援

県外人材等による第三者承継を進めるため、県内中小企業35社の企業価値向上につながる取組を支援。優れた技術を持つ企業や地域の豊かな暮らしを支える県内企業の維持発展を図っています。



■ 働きやすい職場づくりに取り組む「社員ファースト企業」を拡大

働きやすい職場環境づくりに取り組む企業を支援する「社員ファースト企業」制度について、専門のポータルサイトを1月に開設しました。

また、県内の先進企業を訪問する「ウェルビーイングジャーニー」を実施し、専門家とのワークショップを交えながら、14社がウェルビーイング経営への理解を深めました。



成長産業へのチャレンジ応援

伝統のものづくり技術を活かし、航空機産業やヘルスケア産業など次世代産業における技術・製品開発を進めるとともに、農林水産業の成長産業化を促進します。

■ 産業技術総合研究所の北陸デジタルものづくりセンターと連携し、デジタルものづくり分野における共同研究を実施

高品質な金属製品を実現するために、3Dプリンタ製品の精密研磨技術の開発に取り組むとともに、高機能な衣類製品を実現するために、スマートテキスタイルの開発に取り組みました。



産業技術総合研究所
北陸デジタルものづくりセンター

■ **SDGs関連など成長の見込まれる分野の可能性調査・技術開発**を

支援し、企業の価値づくりを促進

県内ものづくり産業の価値づくりの向上を目的として、リサイクルが可能で耐久性に優れた病院・介護福祉施設向けのプラスチックトレイの技術開発など、成長産業4分野(脱炭素関連技術、ヘルスケア、宇宙、ロボット)における9件の可能性調査や技術開発を支援しました。



技術開発に向けた意見交換

■ **嶺南Eコースト計画**に基づくスマートエネルギーエリアを形成

嶺南市町が進めるスマートタウンのモデル地区整備に対して、嶺南スマートエリア推進補助金を活用し、支援しました。

また、VPP リソースを活用した容量市場への参入拡大に向け、公共施設等における電力需要抑制効果の実証を行うなど、エネルギーを活用した地域活性化の取組みを進めました。



スマートタウンイメージ

■ 「**立地地域の将来像に関する共創会議**」で示された将来像の実現に向け、

国や立地市町、電力事業者とともに取組を推進

7月に開催された共創会議において、地域の課題や要望を踏まえ、避難道路の整備、地域医療や地域交通の充実、スマートタウン整備の深化・加速などが、新たな取組みとして位置付けられました。また、2月に開催された共創会議においては、具体的な事業の例が明記され、国や事業者とともに、取組みを加速していきます。



立地地域の将来像に関する共創会議

■ ICTを活用した**スマート農業**を推進

スマート農業の導入の加速化を図るため、GPS固定基地局の活用やロボット田植機、自動給水栓、ドローン等のスマート農機の導入を支援し、スマート農業導入面積が7,600haに拡大しました。



ドローンによる防除作業

■ **大規模水田園芸、大規模施設園芸**の推進により園芸産出額を拡大

今年度は、タマネギやネギ等の機械導入を支援し、水田を活用した園芸品自作付面積を610.9haに拡大しました。

また、トマトの施設導入を支援し、県下全域で大規模園芸施設が25か所に拡大しました。



トマト大規模施設での収穫作業

■ 「**ふくい型林業経営モデル**」による主伐・再造林を推進

木材生産による収益の向上を図るため、ふくい型林業経営モデル集約エリアを設定し、主伐地の集約化に必要な資源調査や作業道等の改良等を支援しました。



高性能林業機械を使った主伐

■ 県外・海外(台湾・インドネシア)における**県産材製品の販路拡大**

県外向けには、東京都で開催される大規模展示会への出展、海外向けには、台湾やインドネシアの現地法人と連携し、展示会や商談会を開催しました。



台湾における展示会

■ 水産学術産業拠点で水産増養殖の共同研究を本格化、**養殖生産規模の拡大**を支援

県、大学、民間企業等と協定を締結し、4月から「小鯛のささ漬け」に使用されるキダイ(レンコダイ)の完全養殖に向けた種苗生産技術開発の試験を開始しました。



水産学術産業拠点での養殖研究

■ **農遊コンシェルジュ**を育成し、農村回遊を進め、農山漁村の交流人口を拡大

各地区において農遊コンシェルジュのスキルアップ研修を1回開催しました。また、大学生等と連携しながら、農遊イベントを企画するとともに、農遊ツアーのモデルコースを2つ作成しました。



勝山での農遊イベントの様子

■ 自伐型林業の取組を拡大し、山村地域の活性化を促進

自伐型林業大学校開校等の効果により、自伐型林業に取組む団体が11団体に増加しました。また、これまでは福井市を中心に団体が設立されていましたが、新たに勝山市や南越前町など他の市町でも設立されるなど、拡がりを見せています。



令和6年度開講式

○次世代を担う人材の輩出

AI時代に活躍する人材育成

AI、IoTなど最新技術を活用できる人材の育成を進め、産業の高付加価値化と関連ビジネスの集積を目指します。

■ DXラボと支援機関が連携し、企業のDX推進を伴走支援

ふくいDXオープンラボでは、相談対応や専門家派遣を実施し、企業のDXへの取組みを後押ししました。県内金融機関・支援機関とともに企業のDXを支援するため「ふくいデジタル推進アライアンス」を発足させ、機運醸成セミナー（7月）やデジタルツールの展示会（2月）を開催しました。



ふくいデジタルアライアンスの協定調印式

■ 学生、転職者等を対象にDXスクールを開講し、企業のIT人材を育成・確保

県内企業の社員等を対象に「ふくいDXスクール」を開講しました。合計71名の方が、45時間程度の講座受講を通じ、実務で使えるスキルを習得しました。



■ IoT・AI等の先端技術の導入による企業の業務効率化、高付加価値化を支援

DXの実践に向けた計画の策定支援や、デジタル技術を有効活用するための社内体制整備を支援するとともに、ふくいDX加速化補助金を活用して県内企業18社がAI・IoT等のデジタル技術の導入を行いました。



専門家による相談風景

■ 県外IT人材の雇用、副業・兼業の都市部人材の活用により県内企業の成長を支援

経営者とDX推進者が自社のDXを自力で考え行動するスキルを取得することを目的に、ふくいDX経営塾を8月に開講しました。29名が3か月程度のカリキュラムを受講し、会社のDX推進計画や人材育成・確保策などに理解を深めました。



産学官連携による地域人材の輩出

若者に魅力のある学びの場の創出や、福井の特色を活かした新学部・新学科の創設等により、県内外から学生を呼び込み、福井を支える産業人材を輩出します。

■ 県立大学に「恐竜学部」を新設

令和6年8月に文部科学省から認可を受け、全国初となる「恐竜学部」の設置が正式に決定。令和7年4月の学部開設に向け、学部棟の建設、入学者選抜など、準備を進めました。



恐竜学部棟イメージ

■ 大学と産業界等との連携により社会人のリスキリング教育を展開

「ふくいNEW経済ビジョン」策定委員と連携し、ビジネスパーソンに必須の「汎用スキル」の習得を目指すオンライン講座を開催。全9講座を開講し、615名が受講しました。



ビジネス汎用スキル研修

■ 企業・市町・県と協働したPBLを推進し「ふくい創生人材」を輩出

県農産物の高付加価値化や空き家情報紹介HPの改良など、県内大学の学生・教員が企業や自治体と協働して地域の課題解決に取り組むPBL（プロジェクト型学習）を合計109件実施しました。



PBL学習

■ 園芸・林業・水産カレッジにて次世代の農林水産業人材を育成

各カレッジでは、来年度以降の農林水産業への就労に向けて、現在74人（農55、林4、水15）の研修生が作業技術や経営ノウハウを学び、新規就農・就業者が177人（農130、林21、水26）増加しました。



定置網漁の実践研修

日本一の出会い・子育て応援

県と市町が協力して全県的な出会い応援の仕組みをつくるとともに、「子だくさんふくいプロジェクト」を推進し、将来を担う子どもたちが生まれ、育ちやすい「日本一の出会い・子育て応援社会」をつくります。

■ ふくい結婚応援協議会を核としたオールふくいの結婚支援

女性を対象にふく恋利用登録料無料キャンペーンと、ふくい結婚応援企業の従業員を対象に法人割引を実施し、出会いの機会を拡大しました。今年度は成婚組数が前年度に比べ15組増え、34組となりました。



■ 男性の育休取得を当たり前。誰もが育休を取りやすい職場環境整備を推進

男性育休の取得を促進する企業向け奨励金の制度内容を見直し、令和6年度は246件の申請がありました。令和5年度の県全体の男性育休取得率は過去最高の31.4%となっています。



男性育休促進キャンペーン

■ 「ふく育」応援団が子育て家庭と妊婦を応援。社会全体で子育てを応援する機運を醸成

妊婦や子育て世帯に優待サービスを提供する「ふく育」応援団店舗を維持し、約6.6万人が、優待サービスを利用できるパスポートに登録しました。



ふく育パスポート

■ 保育料や高校授業料の無償化対象を拡充し、「ふく育県」の子育てを応援

2人以上の子を育てる世帯に対し、4月から高校授業料無償化の所得制限を撤廃したほか、9月からは第2子の保育料無償化の所得制限を撤廃し、2人以上の子育て応援施策を強化しました。



こどもの成長を支える保育者（イメージ）

■ 子育て世帯の家事・育児、外出を支える「ふく育さん」「ふく育タクシー」の普及促進

県内でふく育さん118名、ふく育タクシー24事業者を確保するとともに、一元的に利用申込みを受け付けるWEB窓口を設置し、県内全域でサービスを提供できる体制を整備しました。



ふく育さん、ふく育タクシー利用シーン

■ 地域における全天候型の遊び場の整備を支援

5月に小浜市で新たな全天候型の遊び場「なないろ」、1月に大野市で「OSORA」、3月に福井市の「しろっぱ」が開所しました。ほか、県内9市町で設計・施工が進んでいます。



小浜市「なないろ」(R6.5開所)

■ 子どもが欲しい世帯に日本一の不妊治療助成を実施

体外受精などの不妊治療の最終的な自己負担額が、基本的に6万円を超えないよう助成しています。医療保険適用となる治療のほか、先進医療や保健回数適用終了後の治療も対象にしています。



■ フォスタリング機関による里親の確保、マッチング支援、質の高い里親養育を実現

制度に関する一般の方からの相談や研修、普及啓発、こどもと里親のマッチング、里親になってからのサポートまで、里親やこどもをトータルにサポートしています。



フォスタリング機関「福さと」ロゴ

■ 「ふく育県」を全国にPR。子育て世代の移住を促進

県外の若者や子育て世帯を対象に、本県の充実した子育て環境や子育て施策等をPRし、「ふく育県」のイメージ定着や移住定住につなげるキャンペーンを展開しました。



(3) しあわせアクション運動 ～一人ひとりがプレイヤーになるう～

それぞれが自分の立場でできることを考え、持ち寄る「県民総参加」の社会をつくります。

○県民の“夢実現”を徹底応援

県民の主体的な活動を応援

自らの夢実現や生きがい充実に努力する県民の活動を応援し、一人ひとりのアクションの積み重ねにより、地域を活性化します。

■ 地域のリーダーとなる若者を育成する教育プログラムコースを実施

若者らしい新しい発想で地域活動に取り組む人材を育成する実験的仮想大学「エキセントリック・カレッジふくい」を開校し、県内外で活躍する個性豊かな講師による講義や、フィールドワークなどを行い、高校生を含む37名の若者を育成しました。



エキセントリック・カレッジふくい

■ ふるさと納税活用のクラウドファンディングにより県民活動を応援

ふるさと納税を活用し、10事業のクラウドファンディングを支援しました。全ての事業が目標金額を達成し、笏谷石と越前和紙を活用した笏谷和紙の開発や、小学校の校庭を全面芝生化するプロジェクトなどが実現しました。



ふるさと納税×クラウドファンディング
実行者募集ページ

■ 福井県ブランド戦略に基づき、「『千年文化』を未来へ」を軸に参加型プロジェクトを実施

「ふくい千年文化プロジェクト」として、食や産業、歴史など、県民自身が千年先に残したいモノやコトについてオリジナル手帳にまとめました。また、「ふくい最高!」プロジェクトでは、フォトウォークや福井ならではの工芸体験・食などを楽しむイベントの開催により、県民が福井の良さを再発見しました。



ふくい千年文化プロジェクト
ワークショップ

○課題解決へ県民アクション

県民との協働による地域力向上

まちづくりや地域課題解決に向けた県民の主体的な活動を拡げるとともに、さまざまなプレイヤーが協働することにより、新たな活力を生み出します。

■ 「ふくいSDGsパートナー」の登録拡大、連携・協働により次世代を育成

パートナー登録数は1200機関を超えました。また、パートナーの取組みを周知し、県民自身の活動につなげるため、官民連携で「SDGsフェス」や「ぐるぐるふくい」等のイベントや、普及啓発月間「ジュナナチャレンジ」(9～10月)を実施しました。



ふくい SDGs フェス

■ 県民目線で質の高い政策立案を目指す「政策デザイン」を推進

県内デザイナー・クリエイター等とともにアイデアを出し合う「政策デザインワークショップ」を24回実施しました。また、課題に関連した現場リサーチやナッジに関する相談会も行い、上手な医療のかかり方の周知など、15件の政策がブラッシュアップされました。



政策デザインワークショップ

■ 県と市町協働による課題解決策の検討やシステム標準化・共同化を推進

窓口業務の改善を検討する「窓口DX勉強会」を市町と共同で開催したほか、住民がライブイベントの際に必要な手続きを案内する手続きナビを4町と共同で導入しました。

また、令和7年度末のシステム標準化に向けて、文字同定やガバメントクラウド利用などの課題と対応を共有し、市町の取組みを支援しました。



市町向け窓口DX勉強会

■ デジタル地域通貨「はぴコイン」を活用し、生活DXを推進

定住・移住事業、省エネ促進事業など、県・市町、民間合わせて51事業で「はぴコイン」が活用され、県民の行動変容、域内経済の活性化を促進しました。また、7月には、常時チャージの運用が始まり、地域通貨として利便性が向上し、日常使いが広がり、県民生活のDXを促進しました。



■ 地域の課題を先進技術で解決する**官民協働プロジェクト**を推進

県内の地域課題を、民間事業者の先進的・革新的な技術で解決する実証事業を6件採択しました。採択された実証事業は、8月以降順次開始し、社会実装に向け取り組みました。3月には採択事業者による成果発表会を開催しました。



採択事業者による成果発表会

■ 外国人が**住み・働きやすい環境**を整備し、活躍を促進

7月に富山県、石川県と3県合同にて、災害時の外国人支援に向けた研修会を開催し、41名が参加しました。また、10月に行われた福井県総合防災訓練では、外国人被災者の受入れ、避難対応および啓発を行いました。



災害時外国人支援研修会

■ 「ふくい“しあわせ実感”パートナープラン」に基づく男女共生社会の実現に向けた取り組みを促進

働きやすい職場環境づくりや女性の登用等を促進する「ふくい女性活躍推進企業」は741社(昨年度末から1.7倍の309社増)になりました。また、7月に開催された北陸初の三県合同による「かがやき Hokuriku 女性活躍サミット」には330名が参加し、国と合同でサミット共同宣言を採択しました。



女性活躍サミット共同宣言

○ローカルチャレンジ「移住するならふくい」

関係人口の創出・拡大

都市部の学生や社会人に向け、地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど、福井に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化につなげます。

■ アートキャンプなど**学生の長期滞在型キャンプ**の実施を支援

県内3地区(鯖江市、坂井市、小浜市)において、夏季キャンプ(8~9月)、春キャンプ(2~3月)が実施されました。学生は、今後も週末等を利用して来県するなど、グループで取り組んでいる地域課題のプロジェクトを継続します。



学生キャンプ活動発表会

■ 都市部の専門人材を呼び込む「**地方兼業**」の取り組みを拡大

新たに2名のDX推進アドバイザーを委嘱(計7名)し、新幹線開業効果の分析、外国人観光客向けのホームページの見直しに関する助言、情報セキュリティに関するセミナーやDX推進に係る職員向けセミナーの開催など、県市町の伴走支援を行いました。



DXアドバイザーによるDXセミナー

■ 地域との交流や体験活動を促進する「**ワーケーション**」の受入を推進

福井市と坂井市が行う「ふく育県留学」の取り組みを支援し、10組の都市部在住の親子が保育園や小学校などに通いながら、それぞれ県内に1週間~2週間滞在しました。



地域住民と交流する参加者

都市部への「攻め」の移住政策

関西・中京からの移住促進体制を強化するとともに、都市部在住者に対する就職・就農・事業承継など、多様なマッチングを行い、ふくいにおける新たなチャレンジを促進します。

■ 子育て世代への「**移住支援金**」を加算

6月から、銀座のアンテナショップで定例移住相談会を開始したほか、11月と2月には新たに都市部のショッピングモールで移住相談会を開催するなど新たな移住関心層の開拓を行いました。



アンテナショップでの相談会

■ 福井の生活環境をPRする動画配信等を行い、**福井への移住ブーム**を創出

昨年1月から順次配信を開始したwebドラマ全5話について、都市部を中心にPRした結果、累計視聴回数が250万回を超えました。また、7月~9月、10月~12月の年2回Instagram投稿キャンペーンを開催し、福井の生活環境の魅力をSNSで発信できるよう取り組みました。



■ **若者や子育て世代**やシングルマザーなど新たな移住者層を開拓

4月に横浜で開催された子育て世帯向けのイベントに新たに出展するとともに、10月には大阪で、11月には埼玉でも出展し、「ふく育県」に代表される本県の実生活環境をPRしました。



子育てイベントでのブース出展

■ **移住サポーター**による情報発信や現地コーディネートなど、「人が人を呼ぶ」活動を促進

8月から移住サポート報酬制度を新たに開始し、移住サポート活動による移住マッチングを促進する仕組みを整備し、4件のマッチングにつながりました。



移住サポーターによる相談対応

各分野の主要政策別 令和6年度の主な成果

<5つの分野>

- 将来像の実現を目指して、次の5分野に分けて具体的な政策を企画・実行
- 福井の「文化」と「デザイン」の力を活かし、政策の質を向上

学びを 伸ばす (人材力)	成長を 創る (産業力)	楽しみを 広げる (創造力)	安心を 高める (地域力)	ともに 進める (総合力)
ふくい人が宝。 地域を支え、 未来を創造する 人材の育成	力強い産業基盤 の確立。 チャレンジできる 地域経済の構築	多彩な魅力で 交流拡大。 交通新時代の 活力の創出	人生100年時代の 「健康文化」創造。 暮らしを守る 安全・安心	協働による 県民主役の県政。 外に開き 連携強化

	政策	重点施策	施策	
学びを伸ばす (人材力)	1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成 ・学力・体力全国トップクラスの高い基礎力をもとに、子ども自身の個性を「引き出す教育」、好奇心や探究心を持って学びを「楽しむ教育」を推進 ・自らの可能性に挑戦し、一人ひとりの個性が輝く福井の子どもの育成		個性を引き出し、学びを楽しむ教育プロジェクト ・少人数学級や習熟度別指導、ICTの活用等の推進 ・ふるさと教育・キャリア教育の推進、スポーツ・文化芸術活動の充実 など	○個性や主体性を発揮し、自らの可能性に挑戦する人材の育成 ○一人ひとりの多様な存在や価値観を認め合い、協働して課題を解決する教育の充実 ○郷土を学ぶ教育の推進など、ふるさとを愛する子どもの育成 ○教員の働き方改革や放課後児童クラブ等の充実など、子どもの成長を社会全体で支える教育環境の整備 など
	2 ふくいの産業・社会を支える人づくり ・産学官連携により、福井の産業や自然を活かした教育・研究を推進し、若者に魅力的な学びの場を創出 ・人生100年時代のリカレント教育を充実し、生涯活躍し続ける創造性豊かな人材を育成		「ふくい創生人材」育成プロジェクト ・魅力的な大学づくりや高校等との連携強化による県内進学の促進 ・FAA(ふくいアガミックアライアンス)による県内大学の連携強化 など	○農や水産増養殖、古生物学の学術拠点など、新たな学部・学科の創設による若者に魅力的な大学づくり ○地域でのフィールドワークや共同研究など産学官連携による地域人材の輩出 ○多様な人生設計を支えるリカレント教育の充実 など
	3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現 ・女性、若者、高齢者など、性別、年齢に関わらず誰もが様々なことに挑戦できる共生社会を実現 ・障がい者、外国人など多様な人材が活躍する「ダイバーシティ地域経営」を推進		みんなが主役「ワンチームふくい」プロジェクト ・「働き方改革」による新たなライフスタイルの実現、若者・シニアのチャレンジ応援 ・障がい者、外国人の就労や生活環境の整備 など	○家庭でも職場でもワークシェアを進め、男女が互いに尊重しあう「男女共生社会」の実現 ○若者同士のネットワークを拡大、面白い挑戦を「ちよい足し」応援 ○全世代の県民や企業等が社会貢献活動に参加しやすい環境づくり ○障がい者の就労支援や外国人が住みやすい環境の整備 など
	4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援 ・将来を担う子どもたちを産み育てる若い世代を社会全体で支える仕組みを拡充 ・「日本一の出会い・子育て応援社会」を構築		子どもさんふくいプロジェクト ・多子世帯への経済的支援を2人目からに拡大 ・保育人材の確保など保育の受け皿の強化 など	○「自然な出会い」の環境づくりなど新たな出会いのサポート ○妊娠・出産前後からの切れ目ない支援体制を強化するなど安心して出産・子育てできる環境の整備 ○男性の育児・家事参加の促進やシニア・学生による子育て支援など子どもの健全な成長を社会全体で支える仕組みづくり など
成長を創る (産業力)	5 農林水産業のかでふくいをブランドアップ ・福井の生活・文化を形づくってきた農林水産業を大切に守り、次世代に引き継いでいくとともに、その魅力を福井の発信に最大限活用 ・新技術の活用などにより、力強い成長産業にレベルアップ		稼げる農林水産業創出プロジェクト ・スマート技術の活用による稼げる農林水産業の実現、カレッジ等での人材育成 ・農林水産業と観光等他産業を結び付けるプラットフォームの形成 など	○スマート農業の普及や大規模経営化による生産性の向上 ○「いちほまれ」や「ふくいそば」など福井の美味しい食のトップブランド化 ○観光農園の整備など新たな交流促進による農山漁村の魅力創出 ○県産材の需要と供給を拡大し、育てる林業から稼げる林業へ転換 ○養殖生産やスマート漁業の推進など水産業の成長を促進 など
	6 地域経済のイノベーション ・地域内の経営資源が循環する「福井型エコシステム」の構築、デザイン活用等による地域経済のイノベーションを創出 ・新技術の活用による生産性向上や人材確保、人を幸せにする働き方改革の推進など地域経済の持続的発展を応援		お金・人・技術の地域内循環・拡大プロジェクト ・有望ベンチャーへの投資などスタートアップ企業の発掘・育成 ・「後継ぎベンチャー」の支援など事業創生の推進 など	○起業家による創業支援など地域内でお金や人を循環 ○デザインの力によるものづくり産地の魅力向上 ○和菓子店や酒蔵、伝統工芸などさらに根ざした小さな企業の応援 ○AI、IoT等の新技術の活用による地域企業の生産性向上や外国人材の受入促進等による「人財確保 ○幸せと生産性を両立する「しあわせ働き方改革」の実行 など
	7 Society5.0時代の新産業創出 ・高いものづくり技術を活かした成長産業への進出や新技術を活かした高付加価値産業への転換 ・若者や女性を惹きつける企業の誘致		ものづくり産業の新市場挑戦プロジェクト ・生産・データ利用の拡大、人材集積を通じ、衛星ビジネスの国内拠点を形成 ・未来型エネルギー技術や自然に優しい新素材の開発 など	○航空・宇宙、ヘルスケア産業など成長産業への進出を応援 ○AI・IoTなど技術革新を活かした新サービスの創出、高付加価値化 ○企業誘致による若者や女性を惹きつけること創出 ○スマートエネルギーエリアの整備や研究・人材育成の拠点形成など、嶺南「Eコースト」の形成 など
	8 拡大する世界市場をふくいの成長へ ・成長する地域や分野など世界市場の動向を見極め、県内企業の新たな海外展開に向けた支援を強化 ・食や伝統工芸など本物の魅力を海外に売り込むなど、世界市場の拡大を本県に取込み		世界市場チャレンジプロジェクト ・県民・企業のニーズに即したミッション型海外事務所の設置 ・国・地域ごとのニーズに応じたプロモーションなど インバウンドの拡大 など	○アジア・環日本海諸国への進出や販路開拓の支援など海外ネットワークの充実・強化 ○福井の文化や食を活かした海外売り込みの強化 ○オリンピックや大阪・関西万博等を活かした発信 ○敦賀港・福井港を活かした貿易拡大 ○環日本海、アジア、欧米諸国等との交流促進、国際人材育成 など

	政策	重点施策	施策	
楽しみを広げる (創造力)	9 100年に一度のまちづくり ・北陸新幹線などの高速交通網の整備にあわせ、新幹線駅周辺のまちづくりや二次交通を整備 ・県内外との交流を拡大する県境フロンティア政策を推進		新幹線ゲートウェイ開発プロジェクト ・新たな4つの新幹線駅周辺のまちづくりを市町と協働して推進 ・観光型MaaSの構築 など	○北陸新幹線や中部縦貫自動車道など高速交通網の整備促進 ○新幹線駅周辺のまちづくりを市町等と協働して推進 ○二次交通の充実や地域鉄道等への支援など持続可能な地域交通ネットワークシステムの構築 ○港・空港・道路などのふくいを支える交流基盤の整備・活用の推進 ○関西との近接性を活かした「WAKASARIルックエリア」の形成 など
	10 北陸新幹線開業効果を最大化 ・誘客プロモーションによるふくいブームの創出や観光地の磨き上げ、インバウンド誘客などを集中的に実行し、新幹線開業効果を最大化		観光リゾートエリア形成プロジェクト ・恐竜博物館、東尋坊、丹南伝統的工芸品産地、三方五湖、若狭湾など観光地のスケールアップ など	○観光資源の魅力向上や周遊・滞在を促進する仕掛けづくり ○ブランド力向上やデジタル情報の発信拡大などによるふくいブーム創出 ○国・地域の特徴に応じた外国人目線のインバウンド誘客 ○おもてなしの向上などリビートしたくなる環境づくり ○DMOなど地域が一体となった観光産業化の基盤づくり など
	11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略 ・UITターン支援体制を強化するなど「待ち」から「攻め」の移住政策に転換 ・交流人口の拡大や多様な福井との「関わり」から移住・定住につながる新たな仕組みを構築		関係人口拡大プロジェクト ・県外学生等の長期滞在・地域フィールドワークの促進 ・テレワーク、ワーケーションなど新たな働き方による都市人材の呼び込み など	○県内企業と県外大学生や都市圏の地方転職希望者との接点の拡大などによるUITターンの促進 ○教育機関と産業界が一体となった学生の地元定着の促進 ○学生を滞在させるキャンプの拡大や市町と連携した「微住」の促進 など
	12 文化・スポーツがふくいの活力 ・長い歴史・生活が培った文化力や芸術文化への関心の高まり、国体・障スポ等を通して高まったスポーツ熱をまちづくりや交流人口の拡大に活用 ・デザイン・アートの充実やフェスの開催など若者に魅力あるイベントを拡充し、楽しみにあふれるまちづくりを推進		文化・スポーツによる「エンタメ福井」実現プロジェクト ・全国規模のスポーツ大会の誘致や参加型のスポーツイベントの企画・開催 ・音楽フェスなどにぎわいを創出するまちなかイベントの拡大 など	○千年を超える本県の歴史・文化遺産などをネットワーク化し、歴史ミュージアムふくいを発信 ○サブカルチャー・ポップカルチャーの振興など、「若者・よそ者」が集まるまちづくりの推進 ○スポーツツーリズムの推進や県内を拠点に活躍するスポーツチームの応援 など
安心を高める (地域力)	13 人生100年時代の健康ライフスタイル ・何歳になっても元気なうちは社会を“支える”役割を担うという新しい高齢者観を共有 ・人生100年を健康に過ごすための「ふくい型健康サポートシステム」を構築し、福井発の「健康文化」を創造		ふくい発「健康文化」創造プロジェクト ・ハイシルバークの促進など「いきがい」の延長 ・「ふくい型健康リテラシープログラム」の開発 など	○フレイル予防等の促進による疾病・要介護化の徹底防止など 100歳までの「健活力」の向上 ○通勤や買い物での歩く習慣づくり、健康的な食生活など、日常生活の中で健康に配慮した活動がでてる環境整備 ○地域の健康づくりの担い手育成など住民サポートの強化 など
	14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉 ・医療、介護、予防、生活支援がトータルで提供される「次世代包括ケアシステム」を展開 ・誰もが住み慣れた地域で安心して医療や介護、福祉サービスを受けられる環境を整備		次世代包括ケアシステム推進プロジェクト ・東大との新たな「ジェロントロジー4.0」共同研究や「回復型」フレイル予防の導入 ・医療・介護に生活支援を融合 など	○先端技術を活用したスマート医療、ドクタープール制度、ドクターヘリの活用等による地域医療の充実・強化 ○訪問介護の提供体制の充実や医療・介護・福祉に従事する人材の確保・育成 ○8050問題や育児と介護のダブルケアなど様々な課題に対応する包括的な福祉サービスの充実強化 など
	15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ・新たな技術や有償ボランティアなどの新たな共助の仕組みを活用し、いつまでも安心して暮らすことができる地域を構築 ・豊かな自然環境を保全するとともに、2050年の二酸化炭素排出実質ゼロを目指し、再生可能エネルギー導入等を推進		持続可能な次世代コミュニティ創出プロジェクト ・安心して暮らせる集落生活圏の形成、有償ボランティアの仕組みづくり ・ICTなど新技術の活用による地域の課題解決 など	○集落機能維持に対する支援やICT活用による新たな共助の仕組みづくり ○歴史的まちなみや自然景観など美しい景観の保全・形成 ○豊かな里山里海湖の保全と交流人口拡大への活用 ○再生可能エネルギー等の導入拡大や地球温暖化対策の強化、スマートエリアの整備 など
	16 防災・治安先導県ふくいの実現 ・頻発・激甚化する自然災害に対し、県土強靱化の推進や地域防災力の向上により備えを万全 ・子どもや女性、高齢者などが犯罪等に巻き込まれない安心して暮らせる社会を実現		安心の防災基盤強化プロジェクト ・大規模災害団員の確保支援や企業との連携等による防災力強化 ・治水・土砂災害対策など県土強靱化の推進 など	○県と市町の連携強化や地域の自助・共助による防災力と新技術の力の融合による災害への対応力の向上 ○インフラ老朽化対策や建設産業の担い手確保 ○子ども、女性、高齢者など県民を守る犯罪・事故対策を強化 ○県民の安全最優先の原子力政策の推進 など
ともに進める (総合力)	17 「チームふくい」の行政運営 ・徹底現場主義に基づき、県民主役の県政を実現 ・市町とのコミュニケーション強化や価値創造型の政策立案の推進		市町協働による行政サービス向上プロジェクト ・行政システムの共同化など県・市町共通の課題をチームにより課題解決 ・市町職員確保支援、人事交流 など	○徹底現場主義やフレッドに基づく県民主役の県政、市町との協働強化 ○SDGsの推進や政策デザインの考え方に基づく政策立案と実行 ○AI等の活用による仕事の進め方改革と人材確保・育成 ○歳入確保と歳出の合理化・重点化、健全財政運営 など
	18 広域パートナーシップの強化 ・地方間の連携強化による高速交通網の整備促進 ・広域観光の推進など、県境をつなぐインフラを活用し、人・モノ・情報の活発な交流を促進		地方連携による基盤整備・交流拡大プロジェクト ・関係自治体と一体となった高速交通網の整備促進と県境フロンティア観光の推進 など	○高速交通網の整備促進や広域観光など連携による交流拡大 ○災害や疾病などに備えた広域連携の強化 ○全国の自治体と連携した政策立案や国等への提言 など

政策1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成

令和6年度の主な成果

【施策1-1】個性や主体性を育む探究的な学びの推進

10月に「教育に関する大綱」を改定し、3月に「教育振興基本計画」を策定しました。

12月に普通科系・職業系高校の探究合同発表会「高校生探究フォーラム」を4日間開催し、合計386名の生徒が参加しました。また、大学や企業等から243名の助言者が参加し、生徒たちの発表に対して助言をいただきました。他校の生徒や助言者との意見交換を通して、これからの探究学習についての考えを深めました。



高校生探究フォーラム

【施策1-4】新たな時代を見据えた教育環境の整備

全県立学校のメイン体育館への空調整備に向け、6校の設計に着手しました。また、金津高校や勝山高校等においてリノベーション工事を実施し、安全かつ快適な学習環境を整備しました。

業務改善に積極的に取り組んでいる学校を紹介するGGK（学校業務改善）ニュースや、教職員アンケートや意見をまとめたミライレポートを広く学校現場に周知しました。またSNSを活用し、教師のやりがいや楽しさを発信しました。



リノベーション工事（勝山高校）

【施策1-2】一人ひとりの多様性を認め合う教育の充実

校内に、教室とは別の部屋に支援員を配置し、不登校児童生徒や不登校の兆しのある児童生徒が安心して過ごすことができる居場所をつくる「校内サポートルーム支援員事業」を県内小中学校50校で実施しました。

また、小学校を対象にわくわく読書活動応援事業を実施し、県が選定した「推奨図書」を活用した企画や、公共図書館司書によるブックトーク、学校図書館スーパーバイザー等による活動を計22校で実施しました。



校内サポートルーム

【施策1-5】私立学校の振興

各学校が取り組む特色ある教育活動や学業・スポーツ・文化活動を支援し、魅力ある学校づくりの推進を図りました。また、県内の私立高校における職業系学校・コースの充実や地元定着を促進する取組み、ならびに県内の専修学校が行う入学者確保や地元就職を促進する取組みに対して支援を実施しました。



私立高校におけるICT教育

【施策1-3】ふるさとへの誇りと愛着を育む教育の推進

地域デザイン講座を普通科系高校9校、職業系高校11校で実施しました。12月の「ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会」には、小中学校から15校が本選に出場、「福井ふるさと教育フェスタ」では9団体がふるさと学習や伝統芸能活動の成果を発表しました。

また、「福井の文化財を未来へプロジェクト」として、国指定文化財の大規模修理現場において、8月・11月に見学会、10月・3月にデジタルアートイベントを開催しました。



地域デザイン講座

政策2 ふくいの産業・社会を支える人づくり

令和6年度の主な成果

【施策2-1】若者に魅力的な大学づくり

県立大学における令和7年4月の「恐竜学部」開設に向け、学部棟の建設、オープンキャンパスでの学部PR、入学者選抜などを行いました。

また、令和8年4月開設予定の「地域政策学部（仮称）」について、福井まちなかキャンパスに設置することを発表しました。

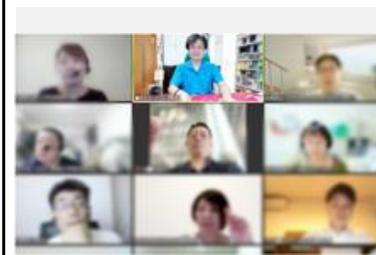


恐竜学部棟イメージ

【施策2-3】多様なライフコースを支える学びの充実

「ふくいNEW経済ビジョン」策定委員と連携した、ビジネスパーソンに必須の「汎用スキル」の修得を目指すオンライン講座を開催し、全9講座で延べ615名が受講しました。

また、地理的・時間的な制約を抱える県内企業従業員を主な対象者として、幅広い分野の動画をオンラインで視聴できる「動画視聴によるリスキリング促進事業」を実施し、県内企業従業員のリスキリング機会を提供しました。



ビジネス汎用スキル研修の様子

【施策2-2】産学官連携による地域人材の輩出

県内大学の学生・教員が企業・市町・県と協働して地域の課題解決に取り組むPBL（プロジェクト型学習）を109件（企業・団体等81件、自治体28件）実施しました。

伝統工芸に携わりたい若者等に向けて、「伝統工芸職人塾」を開催し、日々の技能実習に加え、魅力ある商品づくりや市場調査に関する座学を全15回実施しました。また、職人塾生を含む若手職人を対象としたセミナーやクラフトコンテストの実施を通じて、産地を超えた職人同志の交流や専門家との意見交換を行い、ものづくりに対するモチベーションの向上や産地での定着を図りました。



伝統工芸若手職人交流会

政策3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現

令和6年度の主な成果

【施策3-1】男女が互いに尊重しあう「男女共生社会」の実現

女性の積極的な採用・育成・登用を進める「ふくい女性活躍推進企業」は741社となりました。また、「ハッピーキャリア”縁”カレッジ」では、NEXTリーダーコースを新設し、若手から管理職が知識や意欲を深める取組みや、本県を代表するロールモデルとなる女性に「ふくい女性のチャレンジ賞」を授与するなど情報発信を積極的に行いました。

さらに、大手家事代行事業者と連携協定を締結し、家事負担軽減・ゆとり時間創出による仕事と家庭の両立支援の充実を図りました。



【施策3-2】若者・シニアのチャレンジ応援

ふるさと納税を活用したクラウドファンディングにより、福井を盛り上げる夢やアイデアを持つ県民、事業者、地域団体を支援しました。今年度支援した10事業全てが目標金額を達成し、全国から11,233,000円の寄付が集まりました。

若者や女性の力を福井の活性化につなげる「福井県ワクワクチャレンジプランコンテスト」には、昨年度を上回る45件の応募があり、山間部の耕作放棄地をマウンテンバイクの練習場として整備し山に人を呼び込むプランなど、17件を採択しました。



【施策3-3】社会貢献活動の参加拡大

能登半島地震と豪雨災害の被災者を支援するため、在宅避難者の支援を行うとともに、ボランティアバスを2月12日から12月1日まで200日以上運行し、約3,800人のボランティアが被災家屋の片付け、浸水家屋の泥かきなどを行いました。



【施策3-4】多様な人材が活躍する「ダイバーシティ地域経営」の推進

障がいがある方の工賃向上に向け、高付加価値の事業所独自商品を3商品開発しました。また、障がいのある方がいきいきと働くことができる環境を作るため、ビジネスプランコンテストの開催や農作業環境の整備を通じて農業分野にも活躍の場を広げました。

さらに、外国人コミュニティと行政や地域の橋渡し役を担うコミュニティリーダーとして、17か国・地域の82名を認定しています。2月には、福井市防災センターにて、地震や台風の災害体験を行い、防災について知識を深めました。



【施策3-5】認知症の人やがん患者が自分らしい生活を送れる社会の実現

認知症になっても生きがいをもち、自分らしく暮らすことができる地域づくりを目指し、認知症フォーラムを開催しました。東京在住の認知症の当事者とそのご家族を講師に招き、日常生活で工夫していることや望ましい社会のあり方などについて座談会を行いました。

また、がん患者からの相談対応のため、身近な地域で相談できるサロンの開催や、がん拠点病院等と連携して相談支援や就労支援を行いました。さらに、ピアサポーターの養成講座を行うとともに、治療に伴う外見の変化を補うウィッグ等の購入費の補助上限額を引き上げました。



政策4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援

令和6年度の主な成果

【施策4-1】若者の出会いと結婚応援

恋愛や結婚を希望する若者を応援するため、20代の登録者が多いマッチングアプリを運営する株式会社タップルと連携協定を締結し、若者に対する恋愛気運の醸成や恋人探しの活動の促進に加え、親に対してアプリを使った恋人探しへの理解促進などの啓発を行いました。

また、ふく恋マッチングシステムについては、女性を対象にした利用登録料無料キャンペーンとふくい結婚応援企業の従業員を対象にした法人割引を実施し、出会いの機会を拡大しました。



民間企業と連携した恋愛・結婚応援

【施策4-3】待機児童ゼロの実現

低年齢児（0～2歳児）の担当保育士等を配置基準以上に加配した場合の人員費支援を実施し、103園において手厚い職員配置が実現しました。

また、保育士等が長く働き続けられる職場環境を確保するため、若手保育士への住居手当の支給や、保育補助者等の人員費支援など、処遇改善や負担軽減のための支援を実施しました。



保育の様子

【施策4-2】安心して出産・子育てできる環境の整備

県内17市町において、すべての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう、保健師や助産師等の専門職が、育児不安や悩みに寄り添う伴走型相談支援を実施しました。

また、出産育児用品等の購入や子育てサービス利用料等の経済的負担を軽減するため、現金やデジタル地域通貨「ふくいはぴコイン」の給付による経済的支援を実施しました。



妊婦教室の様子

【施策4-4】社会全体で子育てを応援する仕組みづくり

「ふく育さん」と「ふく育タクシー」の申込みを一元的に受け付けるWEB窓口を設置し、利用料相当を「ふく育ポイント」で還元するモニターキャンペーンを展開した結果、「ふく育さん」は837件、「ふく育タクシー」は932件の利用がありました。

男性育休を促進する企業奨励金に246件の申請があり、令和5年の男性育児休業取得率は過去最高の31.4%に上昇しました。



ふく育さん、ふく育タクシー利用シーン

政策5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ

令和6年度の主な成果

【施策5-1】夢のある次世代の農業を推進

スマート農機を導入したモデル経営体を新たに12経営体（延べ52経営体）育成。GPS固定基地局を活用した高精度作業やドローンの多様な利用について理解を深める推進大会の開催等により、水田での導入面積は、約7,600haとなりました。

また、園芸・林業・水産カレッジにて次世代の農林水産業人材を育成し、農林水産業を担う新たな人材が177人（農130人、林21人、水26人）増加しました。



園芸カレッジでの研修風景

【施策5-4】県産材の需要・供給の拡大と林業の活性化

「大きな林業（ふくい型林業経営モデル）」と「小さな林業（自伐型林業と副業）」を組み合わせた「Fukui Forest Design」の推進により、主伐による収益向上と適切な再造林を行うふくい型林業経営モデル集約エリアが14地区設定され、自伐型林業大学の卒業生が新たに自伐型林業団体を3団体立ち上げました。

また、B材工場の誘致活動、都市圏や海外での販路の開拓、県産材利用の理解と関心を深める体験型イベント「フクモクフェス」を開催（約1.3万人来場）するなど県産材の需要拡大を図りました。



主伐地の状況

【施策5-2】「ふくいの食」のトップブランド化

いちほまれの販路開拓の結果、販売店舗数が約2,800店舗に増加しました。また、県産そば粉を使用する「香福の極み越前蕎麦」認証店を155に拡大するなど、本県を代表する作物のブランド化を進めてきました。

また、首都圏約90店舗において福井美食フェアを開催したほか、高級スーパー、ホテル等を新たに開拓し、県産食材の認知度向上につなげました。

海外に向けては、フランスでの食の見本市「シアルパリ」出展、シンガポールでのレストランフェア開催等、石川県、富山県と連携して、県産品の販路拡大に取り組みました。



いちほまれの販売促進風景

【施策5-5】ふくいの水産業のステップアップ

養殖生産拡大の推進に向け、大学、漁協、市と人材育成に向けた協定を締結し、生簀を活用した実践的な養殖研究を開始したほか、生産拡大に向けた企業との実証試験を進めるため、水産試験場のろ過設備を改修しました。

また、6月には新ブランド「ふくい岩がき」のお披露目を開催したことに加え、通年で生食出荷できるよう、県内4箇所において、殺菌冷海水供給施設を整備しました。さらに、観光客に人気の高い天然ウナギは、放流支援および追跡調査を実施しました。



生簀を活用した若狭まはたの養殖試験

【施策5-3】農山漁村の魅力創出・交流人口の拡大

農遊コンシェルジュに認定した、体験農園や農家レストラン等の事業者のスキルアップを図りました。

また、農村における集客イベント・地域の特産物を活用した新商品開発を支援、直売所や観光地などを巡る農遊スタンプラリーを実施するなど、観光客が農村を回遊し、楽しむ、「農遊」の取り組みを推進しました。

さらに、里山里海湖ビジネスの人材育成や地産地消のキャンペーン、里山体験イベントの実施等により、農山漁村の魅力向上を図りました。



農遊コンシェルジュによる交流風景

【施策5-6】農山漁村地域の基盤づくり

農林業分野では、老朽化した農業水利施設、治山施設、海岸・漁港施設などの機能強化や長寿命化を支援しました。また、草刈りなど農地の保安全管理を強化するため旧町村単位での広域的な組織を2組織育成しました。

水産分野では、ズワイガニ、アカガレイなどの生息環境改善のため、漁場保全（海底耕耘）を5,662ha実施しました。



水路の泥上げなど農地の保安全管理

政策6 地域経済のイノベーション

令和6年度の主な成果

【施策6-1】「福井型エコシステム」の構築

専門家等による個別メンタリング、IPOに向けた人材育成プログラムの実施により有望ベンチャーを育成しました。
また、「福井ベンチャーサミット」（第11回福井ベンチャーピッチ）を開催し、6者が資金調達やパートナー獲得のためプレゼンを行いました。同日には、県内の主要支援機関を集めた懇談会も開催し、若者の起業支援の連携強化にも合意しています。さらに、東京でのピッチイベントに1者が登壇、首都圏のスタートアップと医療DXに関する共創協定も締結しエコシステムの強化を図りました。



福井ベンチャーサミット

【施策6-4】地域企業の生産性向上・人材確保

外国人労働者の受入れを支援するため、7月に「FUKUI外国人材受入サポートセンター」を開設し、企業向け、外国人向け両方の相談に対応しています。
また、県内企業の人材確保のため、採用コンサルタントによるモデル企業への採用力向上の伴走支援を行いました。



サポートセンター ポスター

【施策6-2】デザイン力で魅力あるものづくり産地を創出

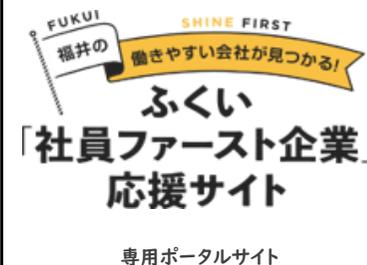
県外デザイナーと伝統工芸事業者の協働で、伝統工芸ブランド「F-TRAD」として新たに13店の商品開発を行いました。ECサイトでの販売を開始するとともに、ギフトショーでの展示や県外ショップでの展示販売により商品PRを展開しました。



ギフトショーでの展示

【施策6-5】働く人のための「しあわせ働き方改革」を実行

働きやすい職場環境づくりに取り組む企業を支援する「社員ファースト企業」制度について、専門のポータルサイトを1月に開設しました。
また、県内の先進企業を訪問する「ウェルビーイングジャーニー」を実施し、専門家とのワークショップを交えながら、14社がウェルビーイング経営への理解を深めました。



専用ポータルサイト

【施策6-3】くらしに根差した小さな企業の応援

商工会・商工会議所およびふくい産業支援センターにおいて、企業訪問による課題の掘りおこしなど、伴走型の支援を実施しました。
さらに、生産工程の機械化による業務効率の改善や新商品開発による新規顧客開拓、店舗改修による集客拡大など、341件の付加価値を高める取組みに対して支援し、県内企業の経営改善を後押ししました。



新事業展開の打合せ

政策7 Society5.0時代の新産業創出

令和6年度の主な成果

【施策7-1】成長産業へのチャレンジ応援

県内ものづくり産業の価値づくりの向上を目的として、リサイクルが可能で耐久性に優れた病院・介護福祉施設向けのプラスチックトレイの技術開発など、成長産業4分野(脱炭素関連技術、ヘルスケア、宇宙、ロボット)における9件の可能性調査や技術開発を支援しました。



技術開発に向けた意見交換の風景

【施策7-3】多様な企業誘致の推進

10月に東京で開催した企業立地・港セミナーにおいて、県内の立地環境や優秀な人材などをPRする知事のトップセールスを実施し、U・Iターン者の受け皿となる研究開発型企業など付加価値の高い企業の誘致活動を進めました。
また、県内の半導体関連企業による投資や、長距離ドライバーの働き方改革に取り組む物流関連企業などの本県への進出が決定しました。



物流関連企業の進出表明

【施策7-2】AI・IoTなど技術革新を活かした新サービスの創出

ふくいDXオープンラボでは、相談対応や専門家派遣を実施し、DXの実践に向けた計画の策定支援や、デジタル技術を有効活用するための社内体制整備を支援するとともに、ふくいDX加速化補助金を活用して県内企業18社がAI・IoT等のデジタル技術を導入しました。
CO-FUKUI未来技術活用プロジェクトでは、「ノーコードを活用した中小企業のDX化・生産性向上」や「プリペイドカードを活用した高齢者とサポートする方の現金管理の負担軽減」など計7件の実証事業を行いました。



生産管理・原価管理システム使用風景

【施策7-4】嶺南Eコストの実現

スマートエリア形成に向けたVPP実証や地域の特色を活かしたスマートタウンの整備支援のほか、原子力リサイクルビジネスを行う株式会社の設立に向けた事業計画の具体化や地元企業・住民への理解促進活動、新試験研究炉の県内企業等による利活用促進を目的とした研究会の設立など、計画に掲げた主要プロジェクトを推進しました。
11月には国や県、電力事業者が参加する、嶺南Eコスト計画推進会議を開催し、計画に位置づけた各施策の進捗管理や、来年度以降の行動方針の決定などを行いました。



スマートタウンの整備イメージ

政策8 拡大する世界市場をふくいの成長へ

令和6年度の主な成果

【施策8-1】海外ネットワークの新展開

海外ビジネス相談窓口である「ふくいグローバルビジネスプラザ」では、県内企業から輸出関連の相談が数多く寄せられており、相談の対象国は32カ国におよびました。さらに、信用調査件数が増加し、57件実施しました。

また、FOOD TAIPEIでは県内企業2社が、THAIFEXでは県内企業3社が福井県ブースで出展し、多数の商談のサポートを行うなど県内企業の販路拡大を支援しました。



FOOD TAIPEI 2024 会場の様子

【施策8-3】国際交流の推進

9月1日、ブラジルのサンパウロ市にて開催された福井県人会70周年記念式典に、県から慶祝団が参加しました。9月18日から26日にかけては、万博国際交流プログラムの一環で、県内大学生がブラジルを訪問し、県人会の方と協力し「ミニ福井まつり」等を実施しました。

また、県内で暮らす外国人29人を「Fukuiレポーターズ」に、福井県を離れる留学生等の外国人55人を友好大使に任命し、県の観光地や魅力を国内外に発信してもらいます。さらに、ブラジルからは技術研修員を3人、中国からは1人受入れ、県内企業にて研修を行いました。



ジャパン・ハウス サンパウロでの
「ミニ福井まつり」

【施策8-2】福井の文化や食を活かした海外売り込みの強化

米国のギャラリーでの県産品展示販売やPRイベント等の実施により、県内企業5社の米国における販路開拓を支援しました。また、海外展示会への出展を計画する県内企業への支援を行い、7社（グループ1件と個社4社）が海外での展示会に出展し商品をPR、商談を実施しました。

さらに、フランスでの食の見本市「シアルパリ」出展、シンガポールでのレストランフェア開催等、石川県、富山県と連携して、県産農林水産物や食品の販路拡大に取り組みました。



フランス「シアルパリ」北陸三県連携PR

政策9 100年に一度のまちづくり

令和6年度の主な成果

【施策9-1】北陸新幹線など高速交通網の整備促進

北陸新幹線小浜京都ルートについて、政府・与党が令和6年内に詳細ルートを決定制し、令和7年度中の着工を目指す方針を示したことから、これを実現するよう、沿線の関係者とともに強く要請しました。政府・与党における議論の結果、詳細ルートを3案から2案に絞り、早期着工に向けて、地元関係者等の懸念や不安の払拭に最善を尽くす方針が表明されました。

中部縦貫自動車道については、県内全線開通に向けて、九頭竜～油坂間に6本あるトンネルの全てが着手され、そのうち4本目と5本目のトンネルが貫通するなど工事が着実に進められています。

また、舞鶴若狭自動車道については、昨年度に工事着手された舞鶴東～大飯高浜間に続き、大飯高浜～小浜西間の工事が新たに着手されるなど、全線4車線化に向けた工事が進められています。



合同中央要請



中部縦貫自動車道の施工状況

【施策9-3】地域の新交通システムの構築

えちぜん鉄道と福井鉄道に交通系ICカードを導入し、県内外の鉄道利用者の利便性向上を図りました。

また、新たな移動手段として、一般ドライバーによる日本版ライドシェアの実証事業を、県内8市町8事業者と連携して行いました。



10月11日 地域鉄道ICOCA導入

【施策9-4】飛躍するふくいを支える基盤の整備・活用

11月24日に国道417号板垣坂バイパス、3月22日に坂本高浜線(おおい町石山)が供用開始となるなど、物流・交流を支える基盤の整備を推進しました。

敦賀港については、鞠山南地区において昨年度の一部供用開始に引き続き、5月から更なる岸壁延伸およびふ頭用地造成に着手し、拡張整備に取り組んでいます。



敦賀港 鞠山南地区の施工状況(12月)

【施策9-2】新幹線駅周辺のまちづくり

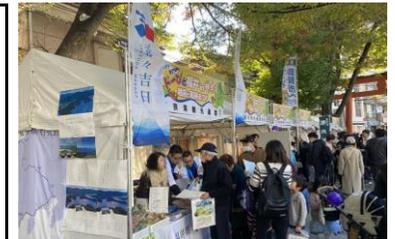
福井駅西口の市街地再開発を支援し、A街区のフクマチブロックが8月9日にグランドオープンしたほか、中央大通り南側と電車通り北側歩道の一部をカフェやベンチ等を設ける「ふくみち」エリアとして3月7日に新たに指定しました。



「フクマチブロック」の開業(8月)

【施策9-5】「WAKASAリフレッシュエリア」の形成

青々吉日公式PRサイトやSNSを通じて敦賀・若狭の魅力を発信するとともに、敦賀・若狭のスポーツイベントへの参加や飲食店、神社仏閣などに訪れたいくなるような周遊企画を実施し、北陸新幹線開業後の敦賀以西への誘客促進を図りました。



11月23日 神楽坂への出向宣伝

政策10 北陸新幹線開業効果を最大化

令和6年度の主な成果

【施策10-1】観光客の心をつかむ魅力づくり

伝統工芸を取り入れたコンセプトルームやペットと泊まれる宿、サイクリストに優しい宿など、多様で魅力的な宿泊施設整備を27件支援しました。

また、三大都市圏での恐竜関係イベントの開催による魅力発信やリニューアル後初となる特別展の開催などにより、過去最高となる120万人が恐竜博物館に来館しました。



サイクリストに優しい宿

【施策10-4】すべての人が満足できる観光環境づくり

観光事業者を対象に、FTASを活用した新幹線開業効果の分析や勉強会を実施しました。また、FTASのリニューアルを行い、国内観光客のアンケートデータだけでなく、インバウンド客のアンケートデータのオープンデータ化や、各エリアの宿泊予約状況がリアルタイムで把握できる宿泊予約データの拡充、観光による住民幸福度アンケートの公表等を行いました。



FTAS(福井県観光データ分析ツール)

【施策10-2】ふくいブームの創出

東京駅周辺をはじめ、北陸新幹線沿線において、年間を通じてプロモーションを展開し、本県の魅力を切れ目なく発信しました。加えて、東北地域からの団体専用直通新幹線の運行にあわせて、初めて東北地域(仙台、盛岡、福島)で出向宣伝を実施し、新たな地域でも「ふくいブーム」を創出しました。

「ふくい食の国291」では新規商品を310点投入するとともに、高級スーパー等で福井フェアを13回開催し、県産品との接点を増やすことにより、来館者数が56万人に増加し、多くの人に福井の魅力を情報発信しました。



仙台駅での出向宣伝

【施策10-5】観光産業化の基盤づくり

観光プレイヤーの発掘、「食」「宿泊」「土産品」「体験」の分野におけるマーケティングデータ分析による新たな観光商品の開発等の支援(90件)を行いました。また、地域の観光を牽引するリーダーに加え、観光ビジネスを始める事業者の育成を目的に、福井県観光アカデミーを開講し、54名が受講しました。



福井県観光アカデミー

【施策10-3】世界を魅了するインバウンド強化

県内観光コンテンツを外国人に好まれるように専門家による磨き上げ支援(20コンテンツ)を行ったほか、インバウンドデスクを設置し、海外の旅行会社等と県内観光関連事業者をマッチング(相談件数:232件)することで、県内コンテンツの魅力を発信しました。



外国人向け観光コンテンツ磨き上げ

政策11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略

令和6年度の主な成果

【施策11-1】産学官連携による学生の県内就職の促進

県内外の第一線で活躍している社会人による「キャリア教育セミナー」を県立高校に13回、地元の産業について学ぶため経営者・技術者等の外部講師による福井県独自の職業学科共通科目「ふくいの産業」を職業系高校において16回実施しました。

また、理系学生に県内企業で働く魅力を伝える産学官連携授業や企業訪問ツアーを県内2大学で実施し、のべ約220名の学生が参加しました。



【施策11-3】関係人口の創出・拡大

地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど、福井に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化につながる取組として、学生の長期滞在型キャンプの実施を支援しており、県内3か所（鯖江市、坂井市、小浜市）において夏季キャンプ（8～9月）、春キャンプ（2～3月）が実施されました。学生は、今後も週末等を利用して来県するなど、グループで取り組んでいる地域課題のプロジェクトを継続します。

また、DXアドバイザー7名を委嘱し、新幹線開業効果の分析に関する相談など、県市町の伴走支援を行いました。



学生キャンプ「活動発表会」の様子

【施策11-2】都市部への「攻め」の移住政策

令和6年度から新たに都市部のショッピングモールでの移住相談会を企画。11月には埼玉県で、2月には東京都でそれぞれ開催し、本県の生活環境の魅力や移住支援策のPRを行いました。

また、神奈川県、大阪府、埼玉県でそれぞれ開催された子育て世帯向けのイベントに出展し、子育て世代に対し本県の子育て環境の魅力をPRしました。



ショッピングモールでの移住相談会

政策12 文化・スポーツがふくいの活力

令和6年度の主な成果

【施策12-1】歴史ミュージアムふくいの発信

歴史博物館や美術館等で新幹線開業を記念した特別展を開催するとともに、県立5館が連携した特別展や常設展をお得に巡ることができる「福井県ミュージアムパスポート」を販売。また、県内外の博物館・美術館が連携した企画を実施し、博物館等を起点とした周遊促進を図りました。

一乗谷朝倉氏遺跡については、遺跡全体をフィールドミュージアムとして見学ルートを整備し、案内サインを統一するなど受入環境づくりを推進。さらに、「一乗谷百景 写真展」や「一乗谷文化祭」などを企画・開催し、一乗谷のブランドイメージの向上を図り、特に若者や家族連れに対して強かに発信しました。



若狭歴史博物館特別展

【施策12-3】スポーツによるまちづくり・交流人口拡大

県は、福井ブローウィンズをはじめ、6チームをFUKUI RAYSとして委嘱し、情報ポータルサイトでの試合結果発信、まちなかの競技体験イベントの開催など、県民が一体となり応援する機運の醸成を進めました。特に、昨秋からB3に参戦した「福井ブローウィンズ」は、31連勝のB3新記録やホーム戦26戦無敗など数々の記録を打ち立てレギュラーシーズン1位、B2昇格を決めるなど、大いに盛り上がりました。

また、ふくい桜マラソン2025では国内外から出走した13,485人のランナーに、ソースカツ丼などのご当地給食、沿道応援で福井の魅力を強かに発信しました。



ふくい桜マラソン2025

【施策12-2】デザイン・アートなど「若者・よそ者」が集まるまちづくり

誰もが文化芸術活動の発表できる「まちなかステージ」を新たに県内2市町に設置したほか（累計8市町）、敦賀市においてサブカルチャーイベントを開催し、まちなかのにぎわい創出を図りました。

また、若狭町においては「熊川宿若狭芸術祭」、永平寺町においては「ZEN AIR」を開催し、国内外のアーティストによる公開制作や制作発表、地域住民との交流イベント等を実施。アートによる交流拡大につなげました。

さらに、県内各地で様々な団体が実施するアートプロジェクトへの助成や相談・助言等の伴走支援を行い、アートを通じた地域活性化を推進しました。



熊川宿若狭芸術祭

政策13 人生100年時代の健康ライフスタイル

令和6年度の主な成果

【施策13-1】100歳までの「健活力」の向上

県内のフレイルサポーターの交流を深め、幅広い世代にフレイル予防を普及するため、ショッピングセンターにて「フレイルチェック体験会」を開催しました。県内のフレイルサポーターやフレイルトレーナーなど総勢40名のスタッフが参加し、県内外約100人の来場者に対して、筋力や認知機能の低下度合いをチェックするとともに、フレイル予防に必要な対策を普及しました。



フレイルチェック体験会

【施策13-3】地域の健康づくりに専門家を活用し住民サポートを強化

健康的な食生活の実践を促すため、県内50事業所を訪問し、従業員約2,500人に対し、減塩メニューの試食や塩分チェックシートを活用した食塩摂取量の把握など、食生活の改善に関する正しい知識の普及と実践に向けた支援を行いました。

また、eスポーツを通して高齢者の生きがいの場や多世代交流の機会を創出し、フレイルや認知症予防を推進しました。



食生活改善推進員による事業所サポート

【施策13-2】日常生活の中に仕掛ける健康づくりを促進

目標に向かってウォーキングに取り組むキャンペーン「はびウォーク2024」を初めて開催し、約9,000人が参加しました。著名人をゲストに招いたキックオフイベントやキャンペーンを通じ、普段よりプラス1000歩の歩行を目指しました。

また、睡眠に対する意識を高め、良い睡眠のための生活習慣を実践してもらう「睡眠キャンペーン」を開催しました。約2,200人の参加者があり、実績報告を提出した方の約6割が睡眠満足度の向上を実感しました。



はびウォーク2024キックオフイベント

政策14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉

令和6年度の主な成果

【施策14-1】「地域完結型」の医療体制の確立

福井大学医学部内に設置した公衆衛生医師確保に関する寄附講座の教員による保健所業務の支援や医学部生に対する保健所実習を実施しました。

県内外医学部生への奨学金貸与、福井大学医学部地域枠の定員拡大について合意するなど、医師確保を推進するとともに、自治医科大学卒業医師の勤務調整を行うなど、地域の要請に応じて医師不足医療機関に医師を派遣しました。



福井大学医学部生の実習

【施策14-3】「次世代包括ケアシステム」の推進

高齢者の就労マッチングアプリ「GBER」を活用し、県民生協においてサポーター（有償ボランティア）が自分の働きたい時間、場所、仕事内容を選んでマッチングするシステムを運用し、これまでに105件マッチングしました。

11月には成果報告会を開催し、県民生協からは活用実績やその効果について、また、GBERの開発者である東京大学先端科学技術研究センターの檜山敦教授からは、GBERを活用した高齢者の生きがい創出についての講演がありました。



成果報告会

【施策14-2】「スマート医療」の推進

オンライン診療の設備導入に加え、ランニングコスト（通信料やアプリ使用料）を支援する補助制度を創設し、5つの診療所を支援するとともに、オンライン診療の高度化（高画質・高音質な通信機器の活用）や医療MaaSの導入について議論を進めました。

また、福井市内の専門病院と丹南地域のかかりつけ医がリアルタイムで脳卒中のCT画像などを共有し、症例相談と重症度の判定ができるネットワークの構築を支援しました。



オンライン診療（診療デモ光景）

【施策14-4】包括的な福祉相談体制の構築

地域福祉の担い手が連携する仕組みづくりや担い手の活動支援など、身近な地域で互いに支え合い、誰もが安心して幸せに暮らせる地域福祉の実現のために福井県地域福祉支援計画を改定しました。

また、医療的ケアが必要な方への入浴や送迎サービスの充実、医療的ケア児者を受け入れる事業所の増加により、地域における支援体制づくりを推進しました。



医療的ケア者への介助の様子

政策15 ふるさとの暮らしと風景の維持

令和6年度の主な成果

【施策15-1】「住みやすさ改革」による豊かな地域コミュニティづくり

各市町が実施する集落活性化対策や、地域住民が寄り合う拠点となる「福井ふるさと茶屋」の整備に向けた計画策定を支援しました。

空き家の購入やリフォーム等に対する補助を実施。子育て世代等の空き家の活用や街なかへの誘導を促進したほか、地域への悪影響が大きい老朽空き家等の除却に対し補助を実施しました。



住民が寄り合う「ふるさと茶屋」

【施策15-3】里山里海湖の保全・活用

地域固有の自然環境と希少種保全を図るため、地域住民や専門家、行政が協力し、あわら市の北潟湖畔ではオオキンケイギク、若狭町の三方湖ではミシシippアカミミガメ、また坂井市ではアメリカザリガニ等の特定外来生物の駆除を行いました。



アメリカザリガニの駆除

【施策15-2】美しい景観の保全・形成

地域の環境保全に関する県民意識の啓発を目的として、住民が主体となって県内一斉に美化活動を行う「クリーンアップふくい大作戦」を実施しています。

また、令和4年度からは、海ごみの発生防止をテーマに、県内河川の上流域から下流域ならびに海岸等において、住民・企業・団体などが清掃を行う「ふくい海ごみゼロチャレンジ」を実施しています。令和6年度は、県内各自治体が連携し、約20,000人の県民が清掃活動に参加しました。



ごみ拾いイベントの実施

【施策15-4】エネルギーと資源の循環型社会の構築

2050年のカーボンニュートラル実現に向け、産官学金民で構成する「カーボンニュートラル福井コンソーシアム」により、「オール福井」での取組を進めています。また、企業の実務担当者を中心としたテーマ別の勉強会（オープンフォーラム）を開催し、現場での課題解決や脱炭素ビジネスの展開に向けたネットワーク構築を進めました。

循環型社会の構築に向けては、食品廃棄物を削減する食べきり・水切り・使い切りの「3きり」や資源物の「分別」について、メディアを活用して分かりやすく県民に伝え、実践のきっかけを創出することにより、ごみの減量化とリサイクルを推進しました。



オープンフォーラムでのワークショップ

政策16 防災先進県ふくいの実現

令和6年度の主な成果

【施策16-1】人と技術による地域防災力の向上

防災士を養成するため、嶺北と嶺南の県内2会場において、研修会（嶺北会場137名、嶺南会場131名）を実施しました。

また、市町が社会福祉施設等との協定締結や指定により確保している福祉避難所において、災害時要配慮者の受入体制を強化するため、市町が実施する福祉避難所の資機材購入等を支援しました。

さらに、災害時にドローンを円滑に活用するため、通常訓練に加え、九頭竜川水系合同水防演習、総合防災訓練を実施し、10月の台風10号では被災状況の調査を実施しました。



福祉避難所に配備した災害用資機材

【施策16-4】県民の安全最優先の原子力政策

大飯地域の緊急時対応に基づき、国、県、市町が連携し、ヘリ・船舶に加え、ゴムボートや地元の遊漁船を活用した多様な手段による住民搬送、ピクトグラムによる住民への情報伝達、LINEやAI電話による避難所受付などを取り入れた原子力防災訓練を実施しました。



大飯OFCでの現地事故対策連絡会議

【施策16-2】災害に強く、安心して暮らせる福井の基盤を構築

吉野瀬川ダム本体打設工事が90%完了したほか、浚渫・伐木等の治水対策、道路における斜面や雪対策、インフラ老朽化対策等を実施し、県土の強靱化を推進しました。



吉野瀬川ダムの施工状況

【施策16-5】拉致問題への対応

国に対し、拉致問題の一刻も早い解決を求める要望を行ったほか、北朝鮮人権侵害問題啓発週間におけるブルーリボンや啓発チラシ等を配布する街頭啓発、ショッピングセンターや県庁舎におけるパネル展およびアニメ「めぐみ」の上映会等を行いました。

加えて、県立高校で拉致問題に関する出前授業を行いました。



拉致問題に関する出前授業

【施策16-3】県民を守る犯罪・事故等の対策

児童、生徒の安全を確保するため、通学路等において歩道整備や防護柵設置など道路の安全対策を実施しました。

また、自治会等による防犯カメラ等の防犯インフラ整備を支援することにより、地域の自主防犯力向上を図りました。

さらに、横断歩道における歩行者優先の徹底を訴えるCMの放送や、手上げ横断を促す路面シートの設置等により横断歩道における交通ルール遵守の意識向上を図るとともに、反射材の無料配布等により、交通事故防止対策を推進しました。



(主)篠尾勝山線 歩道整備

政策17 「チームふくい」の行政運営

令和6年度の主な成果

【施策17-1】県民主役の県政推進

県民主役の県政を推進するため、職員の行動規範である「福井県職員クレド」の浸透と実践を着実に進めます。今年度は、職員が実践しているクレドの「実践事例紹介動画(10本)」等を全庁的に配信し、クレドの理解・共感を進めました。

また、職員表彰「福井県職員クレドアワード」を見直し、日常的に業務改善に取り組む職員を表彰対象とするなど、クレドに基づく行動を行う職員を増やすとともに、取組みの横展開を進めました。



令和6年度クレドアワード受賞者

【施策17-4】仕事の進め方改革と人材の育成

職員間のコミュニケーション促進、所属を超えた協働を促すため、庁舎内のフリーアドレス化を進め、令和6年度末で本庁舎の90%の所属で完了し、令和7年度中には本庁舎全所属での実施および出先機関にも拡大予定です。

また、民間企業派遣研修や地域ビジネス兼業制度などを通じ、官民共創による地域課題の解決に当たる人材を育成しています。

さらに、外部とのファイル共有の効率化を図るため、大容量ファイル受信システムを構築しました。



フリーアドレス化後の人事課

【施策17-2】市町との協働強化

市町と協働した施策を推進するため、「知事と市町長との政策ディスカッション」を実施し、市町長からの提案や要望を県の予算案に反映させました。

また、県庁内に市町職員がテレワークや県職員との打合せができるスペースの設置を検討し、県と市町の相互連携を促進する勤務環境づくりを進めています。

さらに、効率的で利便性の高い行政サービスを目指し、窓口業務の改革を推進する「窓口DX勉強会」を開催したほか、ライフイベント毎に必要な手続きを県・市町横断的に住民に案内するナビゲーションシステムを4町と共同で導入しました。



知事と市町長との政策ディスカッション

【施策17-5】健全財政の維持

歳入確保として、宝くじの販売促進キャンペーンを実施しました。また、政策トライアル予算については、37事業実施し、令和7年度当初予算に26事業反映しました。11事業は、令和7年度も検討を継続します。

さらに、行財政改革アクションプランに掲げる財政指標を達成する見込みです。



宝くじ販売促進キャンペーン

【施策17-3】未来をデザインする政策イノベーション

「ふくいSDGsパートナー」の登録数は1,200件を超えました。パートナーの取組みを周知し、県民自身の実践につなげるため、官民連携で「SDGsフェス」や「ぐるぐるふくい2024」等のイベントや学校での出前授業、普及啓発月間「ジュナナチャレンジ」(9~10月)を実施しました。

また、県内デザイナー・クリエイター等とともにアイデアを出し合う「政策デザインワークショップ」を実施したほか、デザイン思考とナッジ理論を併せて学ぶセミナーを開催するなど、県民目線の政策づくりを進めました。



デザイン思考+ナッジ理論セミナー

政策18 広域パートナーシップの強化

令和6年度の主な成果

【施策18-1】広域連携による高速交通網の整備促進

関西の関係団体（関西広域連合、京都府、大阪府、関西経済連合会）と北陸新幹線建設促進同盟会が一体となって、初めて建設促進に向けた「総決起大会」を開催するなど、沿線の関係者とともに、一日も早い全線開業を実現するよう、政府・与党に強く働きかけました。



総決起大会

【施策18-3】広域連携による防災・医療体制の強化

大規模災害に迅速かつ的確に対応するため、県境を越えた連携体制の構築を図っています。令和6年度には、大雪前に隣接県等と調整会議を実施するとともに、国、高速道路会社、気象台等の関係機関による合同記者会見を実施し注意喚起を図るなど、広域連携による道路除雪体制を強化しました。



雪害対策合同訓練

【施策18-2】広域連携による交流の拡大

教育旅行の誘致について、教育旅行の訪問先に福井が選ばれるよう、石川県、富山県等と連携して現地研修会を開催するとともに、オンラインによる修学旅行商談会を開催し、首都圏および関西圏の学校等に対しPRしました。



現地研修会

【施策18-4】自治体ネットワークによる政策立案と提言

全国知事会議、近畿ブロック知事会議、中部圏知事会議に出席し、分散型国家の実現、エネルギー政策等について、国に提言を行いました。そのうち、夏の全国知事会議は福井市で開催され、人口減少問題等に都道府県が連携して取り組む等の「福井宣言」が採択されました。

また、三方五湖山頂公園において滋賀県知事と懇談し、北陸新幹線の早期全線開業に向けた連携等に合意したほか、富山県宇奈月温泉において富山県知事・石川県知事と懇談し、三県連携して社会減対策の研究に取り組むことなどに合意しました。



全国知事会議in福井

<巻末資料>未来をつくる実践目標「チャレンジ2024」の結果概要について

令和6年度の分野別の進捗状況を以下のとおりまとめました。

福井県長期ビジョン実行プランにおけるKPI および「チャレンジ2024」における実践目標の進捗については、右の4区分に分類しています。

また、目標数から「判断時期未到来（－）」を除いたもののうち、90%以上進捗したもの（「◎」および「○」）の割合を達成度として算出しています。

進捗	内容	判断基準
◎	想定を超えて進捗	110%超え
○	概ね順調に進捗	90~110%
△	対策強化が必要	90%未満
－	判断時期未到来	数値の未公表

分野	長期ビジョン実行プランKPI 進捗						チャレンジ2024 実践目標					
	計	◎	○	△	－	達成度 (%)	計	◎	○	△	－	達成度 (%)
学びを伸ばす (人材力)	26	8	10	3	5	85.7%	95	27	42	14	12	83.1%
成長を創る (産業力)	24	6	7	1	10	92.9%	82	25	32	13	12	81.4%
楽しみを広げる (創造力)	18	2	7	2	7	81.8%	89	22	46	11	10	86.1%
安心を高める (地域力)	23	5	11	2	5	88.9%	78	16	47	14	1	81.8%
ともに進める (総合力)	7	4	2	0	1	100.0%	27	6	18	2	1	92.3%
計	98	25	37	8	28	88.6%	371	96	185	54	36	83.9%

(令和7年4月末時点)